



Firepower 4100/9300 のクラスタリング

クラスタリングを利用すると、複数の Threat Defense ノードをグループ化して1つの論理デバイスとすることができます。クラスタは、単一デバイスのすべての利便性（管理、ネットワークへの統合）を備える一方で、複数デバイスによって高いスループットおよび冗長性を達成します。



(注) クラスタリングを使用する場合、一部の機能はサポートされません。[クラスタリングでサポートされない機能 \(65 ページ\)](#) を参照してください。

- [Firepower 4100/9300 シャーシのクラスタリングについて \(1 ページ\)](#)
- [クラスタリングのライセンス \(6 ページ\)](#)
- [クラスタリングの要件と前提条件 \(7 ページ\)](#)
- [クラスタリングガイドラインと制限事項 \(11 ページ\)](#)
- [クラスタリングの設定 \(15 ページ\)](#)
- [FXOS : クラスタノードの削除 \(45 ページ\)](#)
- [Management Center : クラスタメンバーの管理 \(47 ページ\)](#)
- [Management Center : クラスタのモニタリング \(54 ページ\)](#)
- [Management Center : クラスタのトラブルシューティング \(59 ページ\)](#)
- [クラスタリングの例 \(62 ページ\)](#)
- [クラスタリングの参考資料 \(64 ページ\)](#)
- [クラスタリングの履歴 \(79 ページ\)](#)

Firepower 4100/9300 シャーシのクラスタリングについて

Firepower 4100/9300 シャーシにクラスタを展開すると、以下の処理が実行されます。

- ネイティブインスタンスのクラスタリングの場合：ノード間通信用のクラスタ制御リンク（デフォルトのポートチャネル 48）を作成します。

マルチインスタンスクラスタリングの場合：1つ以上のクラスタタイプの EtherChannel でサブインターフェイスを事前設定する必要があります。各インスタンスには、独自のクラスタ制御リンクが必要です。

1つの Firepower 9300 シャーシ内のセキュリティモジュールに隔離されたクラスタの場合、このリンクはクラスタ通信に Firepower 9300 バックプレーンを使用します。

複数のシャーシによるクラスタリングでは、シャーシ間通信用にこの EtherChannel に物理インターフェイスを手動で割り当てる必要があります。

- アプリケーション内のクラスタブートストラップコンフィギュレーションを作成します。
クラスタを展開すると、クラスタ名、クラスタ制御リンクインターフェイス、およびその他のクラスタ設定を含む最小限のブートストラップコンフィギュレーションがシャーシスーパーバイザから各ユニットに対してプッシュされます。

- スパンドインターフェイスとして、クラスタにデータインターフェイスを割り当てます。

1つの Firepower 9300 シャーシ内のセキュリティモジュールに隔離されたクラスタの場合、スパンドインターフェイスは、複数のシャーシによるクラスタリングの場合のように EtherChannel に制限されません。Firepower 9300 スーパーバイザは共有インターフェイスの複数のモジュールにトラフィックをロードバランシングするために内部で EtherChannel テクノロジーを使用するため、スパンドモードではあらゆるタイプのデータインターフェイスが機能します。複数のシャーシによるクラスタリングでは、すべてのデータインターフェイスでスパンド EtherChannel を使用します。



(注) 管理インターフェイス以外の個々のインターフェイスはサポートされていません。

- 管理インターフェイスをクラスタ内のすべてのユニットに指定します。

クラスタリングの詳細については、以下の項を参照してください。

ブートストラップコンフィギュレーション

クラスタを展開すると、クラスタ名、クラスタ制御リンクインターフェイス、およびその他のクラスタ設定を含む最小限のブートストラップコンフィギュレーションが Firepower 4100/9300 シャーシスーパーバイザから各ユニットに対してプッシュされます。

クラスタメンバー

クラスタメンバーは連携して動作し、セキュリティポリシーおよびトラフィックフローの共有を達成します。

クラスタ内のメンバーの1つが**制御**ユニットになります。制御ユニットは自動的に決定されます。他のすべてのメンバーは**データ**ユニットになります。

すべてのコンフィギュレーション作業は制御ユニット上でのみ実行する必要があります。コンフィギュレーションはその後、データユニットに複製されます。

機能によっては、クラスタ内でスケリングしないものがあり、そのような機能については制御ユニットがすべてのトラフィックを処理します。[クラスタリングの中央集中型機能](#)を参照してください。

クラスタ制御リンク

ネイティブ インスタンス クラスタリングの場合：クラスタ制御リンクは、ポートチャンネル 48 インターフェイスを使用して自動的に作成されます。

マルチインスタンス クラスタリングの場合：1つ以上のクラスタタイプの EtherChannel でサブインターフェイスを事前設定する必要があります。各インスタンスには、独自のクラスタ制御リンクが必要です。

1つの Firepower 9300 シャーシ内のセキュリティモジュールに隔離されたクラスタの場合、このインターフェイスにメンバーインターフェイスはありません。このクラスタタイプの EtherChannel は、クラスタ通信に Firepower 9300 バックプレーンを使用します。複数シャーシでのクラスタリングでは、EtherChannel に 1つ以上のインターフェイスを追加する必要があります。

2 シャーシによるクラスタの場合、シャーシと別のシャーシとの間をクラスタ制御リンクで直接接続しないでください。インターフェイスを直接接続した場合、一方のユニットで障害が発生すると、クラスタ制御リンクが機能せず、他の正常なユニットも動作しなくなります。スイッチを介してクラスタ制御リンクを接続した場合は、正常なユニットについてはクラスタ制御リンクは動作を維持します。

クラスタ制御リンク トラフィックには、制御とデータの両方のトラフィックが含まれます。

クラスタ制御リンクのサイジング

可能であれば、各シャーシの予想されるスループットに合わせてクラスタ制御リンクをサイジングする必要があります。そうすれば、クラスタ制御リンクが最悪のシナリオを処理できます。

クラスタ制御リンク トラフィックの内容は主に、状態アップデートや転送されたパケットです。クラスタ制御リンクでのトラフィックの量は常に変化します。転送されるトラフィックの量は、ロードバランシングの有効性、または中央集中型機能のための十分なトラフィックがあるかどうかによって決まります。次に例を示します。

- NAT では接続のロードバランシングが低下するので、すべてのリターン トラフィックを正しいユニットに再分散する必要があります。
- メンバーシップが変更されると、クラスタは大量の接続の再分散を必要とするため、一時的にクラスタ制御リンクの帯域幅を大量に使用します。

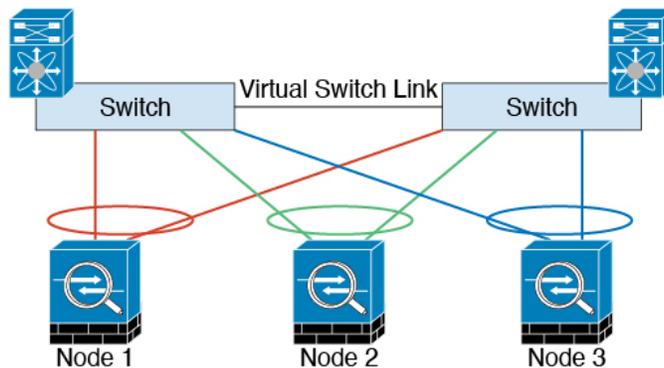
クラスタ制御リンクの帯域幅を大きくすると、メンバーシップが変更されたときの収束が高速になり、スループットのボトルネックを回避できます。



- (注) クラスタに大量の非対称（再分散された）トラフィックがある場合は、クラスタ制御リンクのサイズを大きくする必要があります。

クラスタ制御リンクの冗長性

次の図は、仮想スイッチングシステム（VSS）、仮想ポートチャネル（vPC）、StackWise、または StackWise Virtual 環境でクラスタ制御リンクとして EtherChannel を使用する方法を示します。EtherChannel のすべてのリンクがアクティブです。スイッチが冗長システムの一部である場合は、同じ EtherChannel 内のファイアウォールインターフェイスをそれぞれ、冗長システム内の異なるスイッチに接続できます。スイッチインターフェイスは同じ EtherChannel ポートチャネルインターフェイスのメンバです。複数の個別のスイッチが単一のスイッチのように動作するからです。この EtherChannel は、スパンド EtherChannel ではなく、デバイスローカルであることに注意してください。



シャーシ間クラスタリングのクラスタ制御リンクの信頼性

クラスタ制御リンクの機能を保証するには、ユニット間のラウンドトリップ時間（RTT）が 20 ms 未満になるようにします。この最大遅延により、異なる地理的サイトにインストールされたクラスタメンバとの互換性が向上します。遅延を調べるには、ユニット間のクラスタ制御リンクで ping を実行します。

クラスタ制御リンクは、順序の異常やパケットのドロップがない信頼性の高いものである必要があります。たとえば、サイト間の導入の場合、専用リンクを使用する必要があります。

クラスタ制御リンク ネットワーク

Firepower 4100/9300 シャーシは、シャーシ ID とスロット ID (127.2.chassis_id.slot_id) に基づいて、各ユニットのクラスタ制御リンク インターフェイスの IP アドレスを自動生成します。通常、同じ EtherChannel の異なる VLAN サブインターフェイスを使用するマルチインスタンスクラスタの場合は、VLAN の分離によって異なるクラスタに同じ IP アドレスを使用できません。クラスタ制御リンク ネットワークでは、ユニット間にルータを含めることはできません。レイヤ 2 スイッチングだけが許可されています。

管理ネットワーク

すべてのユニットを単一の管理ネットワークに接続することを推奨します。このネットワークは、クラスタ制御リンクとは別のものです。

管理インターフェイス

管理タイプのインターフェイスをクラスタに割り当てる必要があります。このインターフェイスはスパンドインターフェイスではなく、特別な個別インターフェイスです。管理インターフェイスによって各ユニットに直接接続できます。この管理論理インターフェイスはデバイスの他のインターフェイスから切り離されています。これは、**Secure Firewall Management Center** にデバイスを設定し、登録するために使用されます。独自のローカル認証、IP アドレス、およびスタティックルーティングを使用します。クラスタの各メンバーは、管理ネットワーク上で、それぞれに異なる IP アドレスを使用します。これらの IP アドレスは、ブートストラップ構成の一部としてユーザーが設定します。

クラスタ インターフェイス

1 つの Firepower 9300 シャーシ内のセキュリティモジュールに隔離されたクラスタでは、物理インターフェイスと **EtherChannel**（「ポートチャネル」とも呼ばれる）の両方を割り当てることができます。クラスタに割り当てられたインターフェイスはクラスタ内のすべてのメンバーのトラフィックのロード バランシングを行うスパンドインターフェイスです。

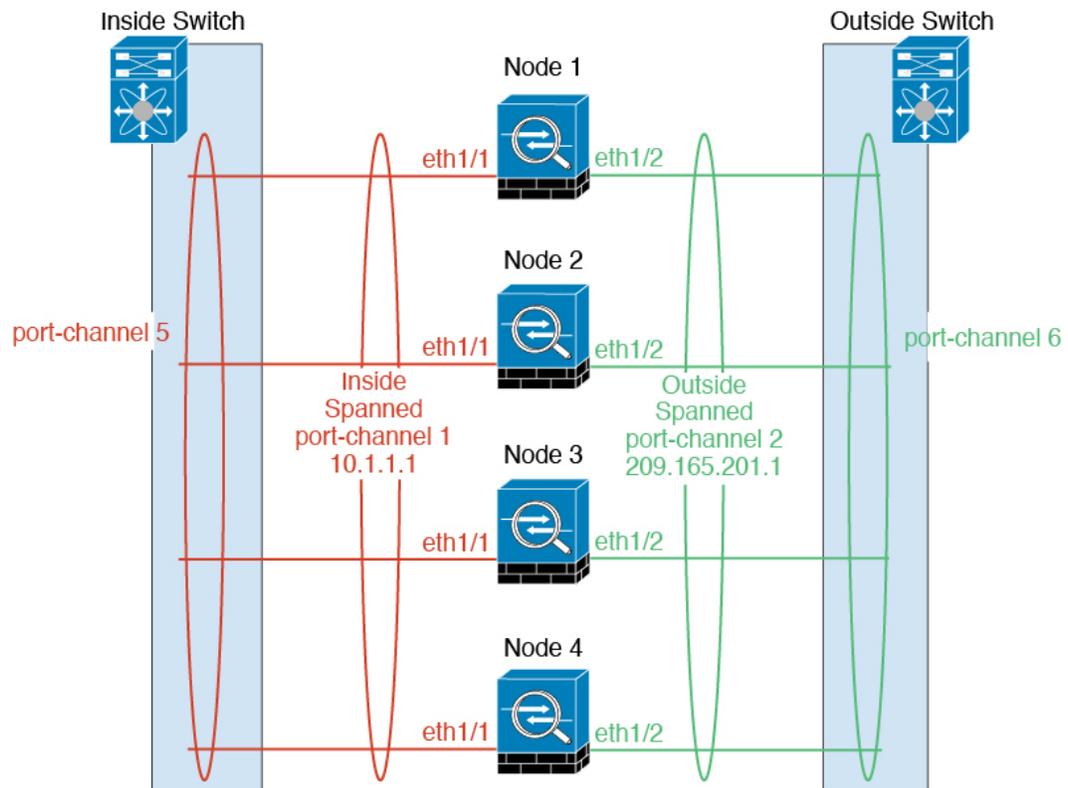
複数のシャーシによるクラスタリングでは、データ **EtherChannel** のみをクラスタに割り当てできます。これらのスパンド **EtherChannel** は、各シャーシの同じメンバーインターフェイスを含みます。上流に位置するスイッチでは、これらのインターフェイスはすべて単一の **EtherChannel** に含まれ、スイッチは複数のデバイスに接続されていることを察知しません。

管理インターフェイス以外の個々のインターフェイスはサポートされていません。

スパンド **EtherChannel**

シャーシあたり 1 つ以上のインターフェイスをグループ化して、クラスタのすべてのシャーシに広がる **EtherChannel** とすることができます。**EtherChannel** によって、チャンネル内の使用可能なすべてのアクティブインターフェイスのトラフィックが集約されます。スパンド **EtherChannel** は、ルーテッドとトランスペアレントのどちらのファイアウォールモードでも設定できます。ルーテッドモードでは、**EtherChannel** は単一の IP アドレスを持つルーテッドインターフェイスとして設定されます。トランスペアレントモードでは、IP アドレスはブリッジグループメンバーのインターフェイスではなく **BVI** に割り当てられます。**EtherChannel** は初めから、ロード バランシング機能を基本的動作の一部として備えています。

マルチインスタンスのクラスタの場合、各クラスタには専用データ **Etherchannel** が必要です。共有インターフェイスまたは **VLAN** サブインターフェイスを使用することはできません。



冗長スイッチシステムへの接続

インターフェイスに冗長性を持たせるために、EtherChannel を VSS、vPC、StackWise、または StackWise Virtual システムなどの冗長スイッチシステムに接続することをお勧めします。

コンフィギュレーションの複製

クラスタ内のすべてのノードは、単一の設定を共有します。設定の変更は制御ノードでのみ可能（ブートストラップ設定は除く）で、変更はクラスタに含まれる他のすべてのノードに自動的に同期されます。

クラスタリングのライセンス

個別のノードではなく、クラスタ全体に機能ライセンスを割り当てます。ただし、クラスタの各ノードは機能ごとに個別のライセンスを使用します。クラスタリング機能自体にライセンスは必要ありません。

クラスタノードを Management Center に追加する際に、そのクラスタに使用する機能ライセンスを指定できます。クラスタのライセンスは、[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスタ (Cluster)] > [ライセンス (License)] 領域で変更できます。



- (注) Management Center にライセンスを取得する（および評価モードで実行する）前にクラスタを追加した場合、Management Center にライセンスを取得する際にポリシーの変更をクラスタに展開するとトラフィックの中断が発生することがあります。ライセンスモードを変更したことによって、すべてのデータユニットがクラスタをいったん離れてから再参加することになります。

クラスタリングの要件と前提条件

クラスタ モデルのサポート

Threat Defense は、次のモデルでのクラスタリングをサポートしています。

- Firepower 9300：クラスタには最大 16 ノードを含めることができます。たとえば、16 のシャーシで 1 つのモジュールを使用したり、8 つのシャーシで 2 つのモジュールを使用して、最大 16 のモジュールを組み合わせたことができます。複数のシャーシによるクラスタリングと、1 つのシャーシ内のセキュリティモジュールに分離されたクラスタリングがサポートされます。
- Firepower 4100：複数のシャーシでクラスタリングを使用して、最大 16 ノードがサポートされます。

ユーザの役割

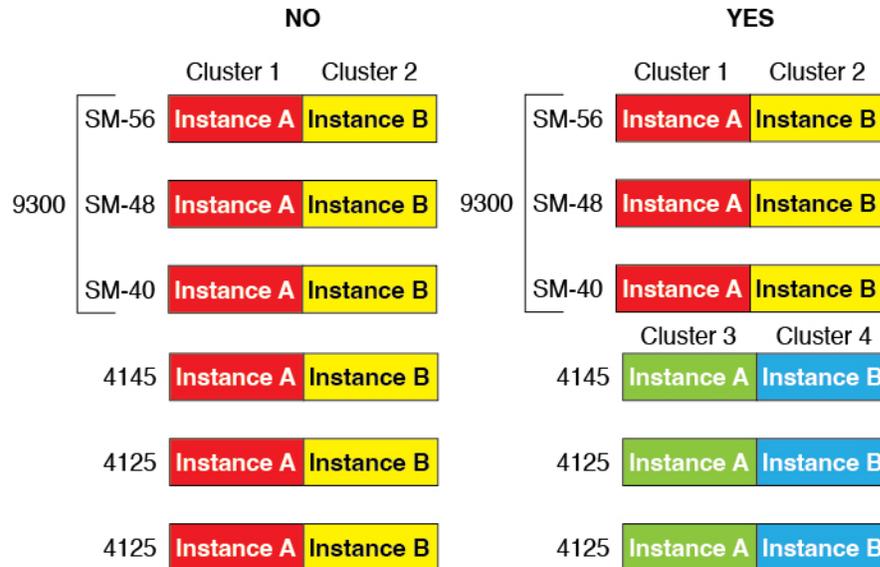
- 管理者
- アクセス管理者
- ネットワーク管理者

クラスタリングハードウェアおよびソフトウェアの要件

クラスタ内のすべてのシャーシ：

- ネイティブインスタンスのクラスタリング—Firepower 4100：すべてのシャーシが同じモデルである必要があります。Firepower 9300：すべてのセキュリティ モジュールは同じタイプである必要があります。たとえば、クラスタリングを使用する場合は、Firepower 9300 のすべてのモジュールは SM-40 である必要があります。各シャーシに異なる数のセキュリティモジュールをインストールできますが、すべての空のスロットを含め、シャーシのすべてのモジュールをクラスタに含める必要があります。
- コンテナインスタンスのクラスタリング—クラスタインスタンスごとに同じセキュリティモジュールまたはシャーシモデルを使用することをお勧めします。ただし、必要に応じて、同じクラスタ内に異なる Firepower 9300 セキュリティモジュールタイプまたは Firepower 4100 モデルのコンテナインスタンスを混在させ、一致させることができます。同じクラス

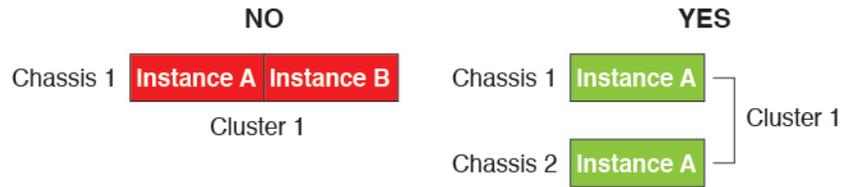
タ内で Firepower 9300 と 4100 のインスタンスを混在させることはできません。たとえば、Firepower 9300 SM-56、SM-48、および SM-40 のインスタンスを使用して 1 つのクラスタを作成できます。または、Firepower 4145 および 4125 でクラスタを作成できます。



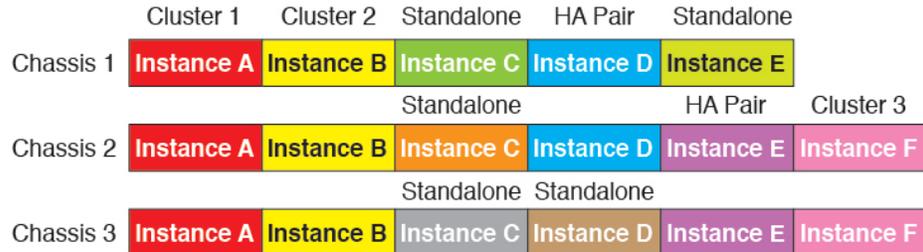
- イメージアップグレード時を除き、同じ FXOS およびアプリケーションソフトウェアを実行する必要があります。ソフトウェアバージョンが一致しないとパフォーマンスが低下する可能性があるため、すべてのノードを同じメンテナンス期間でアップグレードするようにしてください。
- 同じ管理インターフェイス、EtherChannel、アクティブ インターフェイス、速度、デュプレックスなど、クラスタに割り当てるインターフェイスについても同じインターフェイスの設定を含める必要があります。同じインターフェイス ID の容量が一致し、同じスパンド EtherChannel にインターフェイスを正常にバンドルできれば、シャーシに異なるネットワーク モジュール タイプを使用できます。複数のシャーシによるクラスタでは、すべてのデータインターフェイスを EtherChannel にする必要があることに注意してください。
(インターフェイスモジュールの追加や削除、または EtherChannel の設定などにより) クラスタリングを有効にした後に FXOS でインターフェイスを変更した場合は、各シャーシで同じ変更を行います (データノードから始めて、制御ノードで終わります)。
- 同じ NTP サーバを使用する必要があります。脅威に対する防御では、Management Center も同じ NTP サーバを使用する必要があります。時間を手動で設定しないでください。

マルチインスタンス クラスタリングの要件

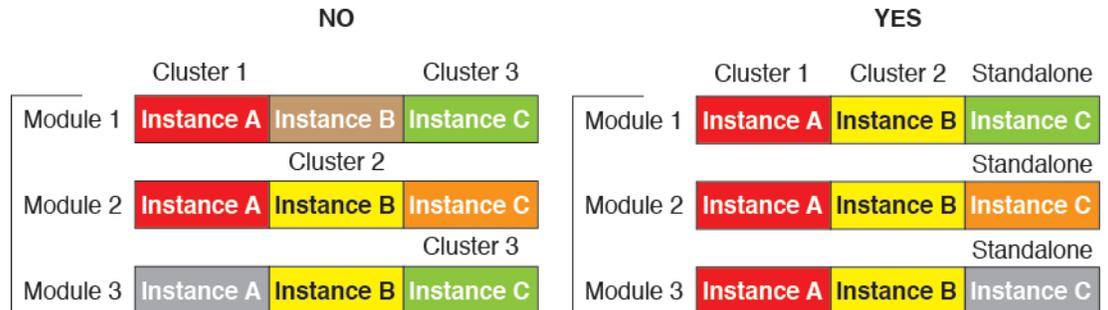
- セキュリティモジュール/エンジン間クラスタリングなし：特定のクラスタでは、セキュリティモジュール/エンジンごとに 1 つのコンテナインスタンスのみを使用できます。同じモジュール上で実行されている場合、同じクラスタに 2 つのコンテナインスタンスを追加することはできません。



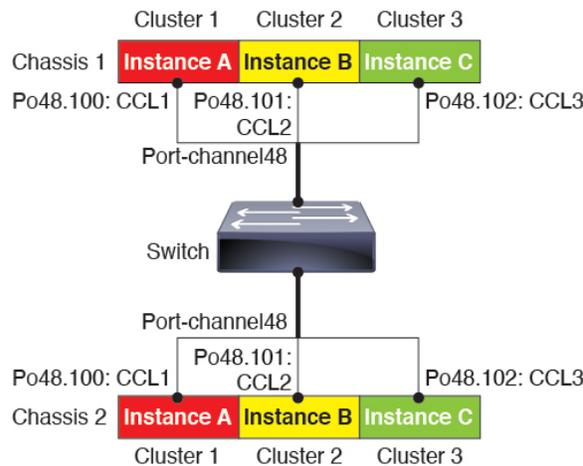
- クラスタとスタンドアロンインスタンスの混在：セキュリティモジュール/エンジン上のすべてのコンテナインスタンスがクラスタに属している必要はありません。一部のインスタンスをスタンドアロンノードまたは高可用性ノードとして使用できます。また、同じセキュリティモジュール/エンジン上で別々のインスタンスを使用して複数のクラスタを作成することもできます。



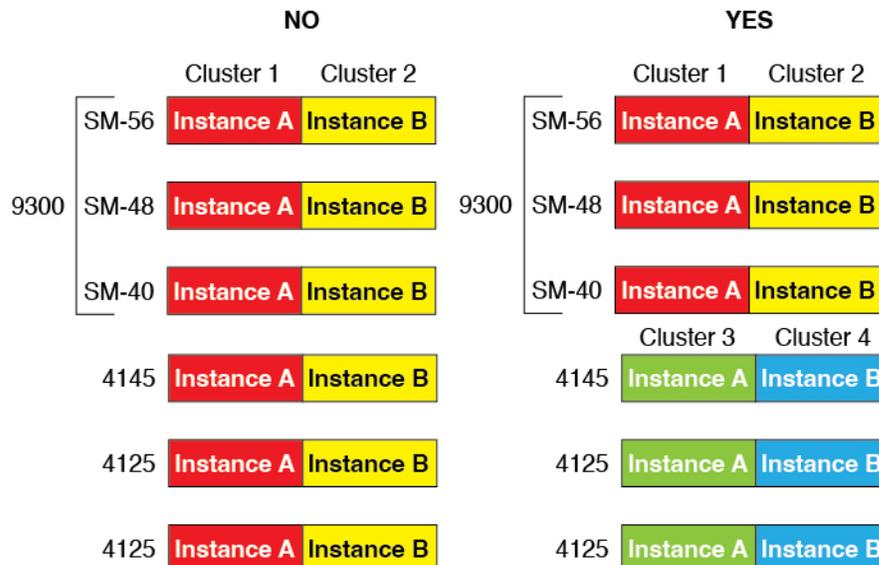
- Firepower9300 の3つすべてのモジュールはクラスタに属している必要があります。Firepower 9300 の場合、クラスタには3つすべてのモジュールで1つのコンテナインスタンスが必要です。たとえば、モジュール1と2のインスタンスを使用してクラスタを作成し、モジュール3のネイティブインスタンスを使用することはできません。



- リソースプロファイルの一致：クラスタ内の各ノードで同じリソースプロファイル属性を使用することを推奨します。ただし、クラスタノードを別のリソースプロファイルに変更する場合、または異なるモデルを使用する場合は、リソースの不一致が許可されます。
- 専用クラスタ制御リンク：複数のシャーンによるクラスタの場合、各クラスタには専用のクラスタ制御リンクが必要です。たとえば、各クラスタは、同じクラスタタイプの EtherChannel で個別のサブインターフェイスを使用したり、個別の EtherChannel を使用したりできます。



- 共有インターフェイスなし：共有タイプのインターフェイスは、クラスタリングではサポートされません。ただし、同じ管理インターフェイスとイベントインターフェイスを複数のクラスタで使用することはできます。
- サブインターフェイスなし：マルチインスタンスクラスタは、FXOS 定義の VLAN サブインターフェイスを使用できません。クラスタ制御リンクは例外で、クラスタ EtherChannel のサブインターフェイスを使用できます。
- シャーシモデルの混在：クラスタインスタンスごとに同じセキュリティモジュールまたはシャーシモデルを使用することを推奨します。ただし、必要に応じて、同じクラスタ内に異なる Firepower 9300 セキュリティモジュールタイプまたは Firepower 4100 モデルのコンテナインスタンスを混在させ、一致させることができます。同じクラスタ内で Firepower 9300 と 4100 のインスタンスを混在させることはできません。たとえば、Firepower 9300 SM-56、SM-48、および SM-40 のインスタンスを使用して 1 つのクラスタを作成できます。または、Firepower 4145 および 4125 でクラスタを作成できます。



- 最大 6 ノード：クラスタ内では最大 6 つのコンテナインスタンスを使用できます。

スイッチ要件

- Firepower 4100/9300 シャーシのクラスタリングを設定する前に、スイッチの設定を完了し、シャーシからスイッチまですべての EtherChannel を良好に接続してください。
- サポートされているスイッチの特性については、『[Cisco FXOS Compatibility](#)』を参照してください。

クラスタリング ガイドラインと制限事項

クラスタリングのスイッチ

- 接続されているスイッチが、クラスタ データ インターフェイスとクラスタ制御リンク インターフェイスの両方の MTU と一致していることを確認します。クラスタ制御リンク インターフェイスの MTU は、データインターフェイスの MTU より 100 バイト以上大きく設定する必要があります。そのため、スイッチを接続するクラスタ制御リンクを適切に設定してください。クラスタ制御リンクのトラフィックにはデータパケット転送が含まれるため、クラスタ制御リンクはデータパケット全体のサイズに加えてクラスタトラフィックのオーバーヘッドにも対応する必要があります。
- Cisco IOS XR システムでデフォルト以外の MTU を設定する場合は、クラスタデバイスの MTU よりも 14 バイト大きい IOS XR インターフェイスの MTU を設定します。そうしないと、**mtu-ignore** オプションを使用しない限り、OSPF 隣接関係ピアリングの試行が失敗する可能性があります。クラスタデバイス MTU は、IOS XR IPv4 MTU と一致させる必要があります。この調整は、Cisco Catalyst および Cisco Nexus スイッチでは必要ありません。
- クラスタ制御リンク インターフェイスのスイッチでは、クラスタ ユニットに接続されるスイッチポートに対してスパニングツリー PortFast をイネーブルにすることもできます。このようにすると、新規ユニットの参加プロセスを高速化できます。
- スイッチでは、EtherChannel ロードバランシング アルゴリズム **source-dest-ip** または **source-dest-ip-port** (Cisco Nexus OS および Cisco IOS-XE の **port-channel load-balance** コマンドを参照) を使用することをお勧めします。クラスタのデバイスにトラフィックを不均一に配分する場合がありますので、ロードバランス アルゴリズムでは **vlan** キーワードを使用しないでください。
- スイッチの EtherChannel ロードバランシング アルゴリズムを変更すると、スイッチの EtherChannel インターフェイスは一時的にトラフィックの転送を停止し、スパニングツリー プロトコルが再始動します。トラフィックが再び流れ出すまでに、少し時間がかかります。
- クラスタ制御リンク パスのスイッチでは、L4 チェックサムを検証しないようにする必要があります。クラスタ制御リンク経路でリダイレクトされたトラフィックには、正しい L4 チェックサムが設定されていません。L4 チェックサムを検証するスイッチにより、トラフィックがドロップされる可能性があります。

- ポートチャンネルバンドルのダウンタイムは、設定されているキープアライブ インターバルを超えてはなりません。
- Supervisor 2T EtherChannel では、デフォルトのハッシュ配信アルゴリズムは適応型です。VSS 設計での非対称トラフィックを避けるには、クラスタデバイスに接続されているポートチャンネルでのハッシュ アルゴリズムを固定に変更します。

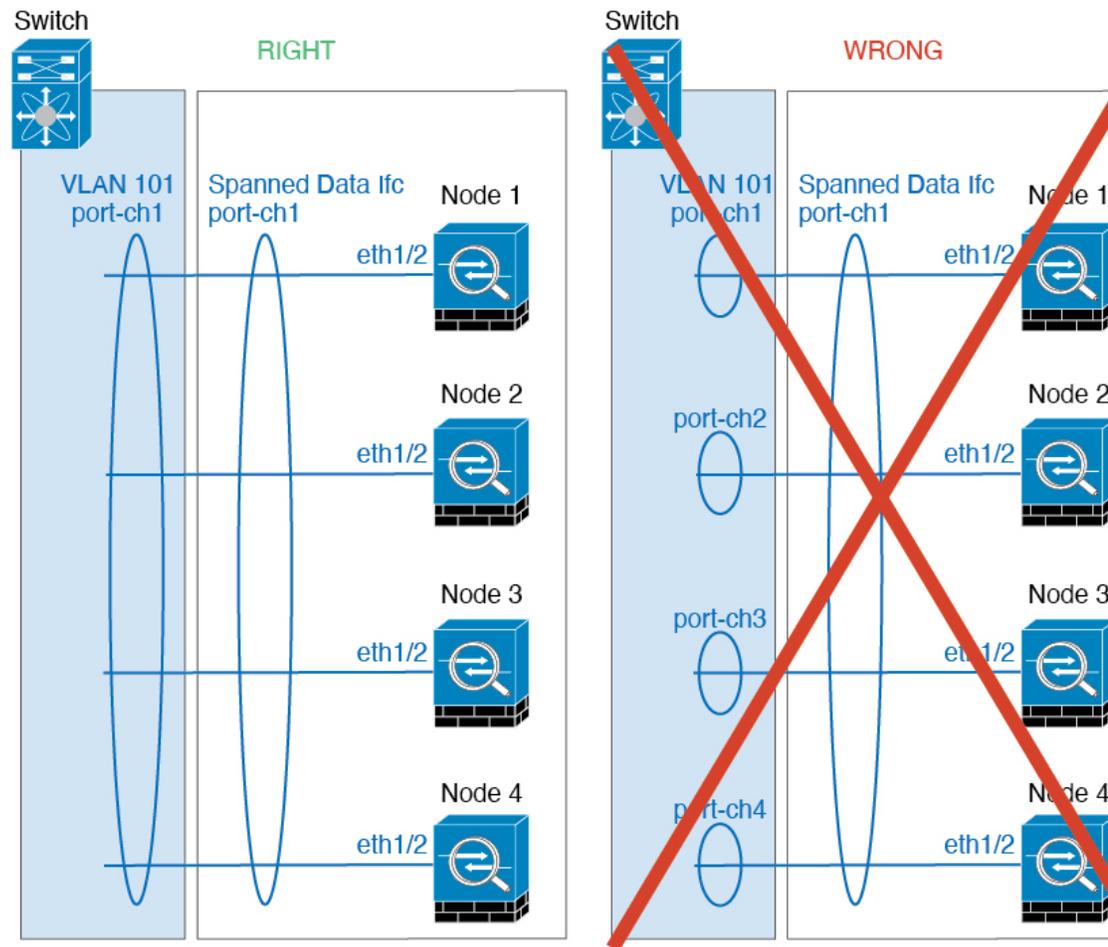
router(config)# **port-channel id hash-distribution fixed**

アルゴリズムをグローバルに変更しないでください。VSS ピア リンクに対しては適応型アルゴリズムを使用できます。

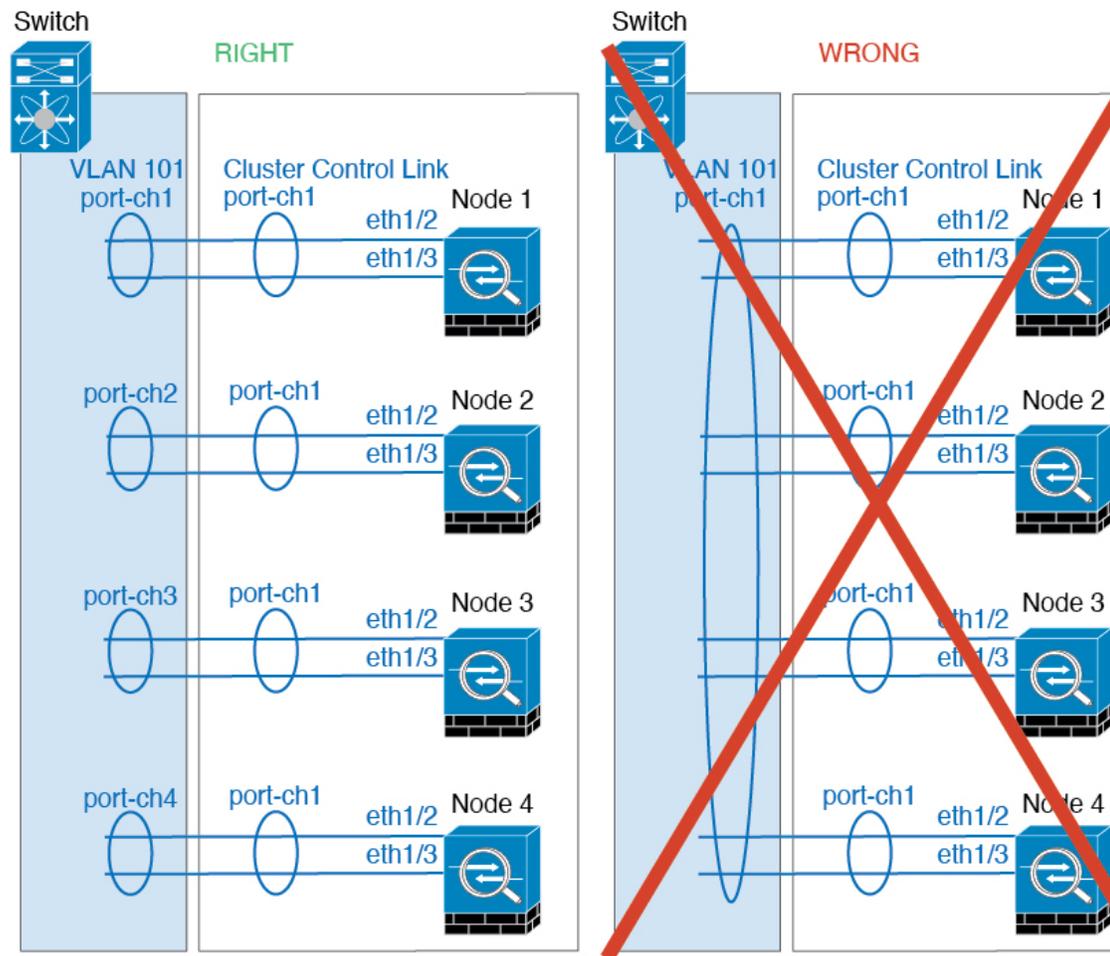
- Firepower 4100/9300 クラスタは LACP グレースフル コンバージェンスをサポートしています。したがって、接続されている Cisco Nexus スイッチで LACP グレースフル コンバージェンスを有効のままにしておくことができます。
- スイッチ上のスパンド EtherChannel のバンドリングが遅いときは、スイッチの個別インターフェイスに対して LACP 高速レートをイネーブルにできます。FXOS EtherChannel にはデフォルトで [高速 (fast)] に設定されている LACP レートがあります。Nexus シリーズなど一部のスイッチでは、インサーブिस ソフトウェア アップグレード (ISSU) を実行する際に LACP 高速レートがサポートされないことに注意してください。そのため、クラスタリングで ISSU を使用することは推奨されません。

クラスタリングの EtherChannel

- 15.1(1)S2 より前の Catalyst 3750-X Cisco IOS ソフトウェア バージョンでは、クラスタユニットはスイッチ スタックに EtherChannel を接続することをサポートしていませんでした。デフォルトのスイッチ設定では、クラスタユニット EtherChannel がクロススタックに接続されている場合、制御ユニットのスイッチの電源がオフになると、残りのスイッチに接続されている EtherChannel は起動しません。互換性を高めるため、**stack-mac persistent timer** コマンドを設定して、十分なリロード時間を確保できる大きな値、たとえば 8 分、0 (無制限) などを設定します。または、15.1(1)S2 など、より安定したスイッチ ソフトウェア バージョンにアップグレードできます。
- スパンド EtherChannel とデバイス ローカル EtherChannel のコンフィギュレーション：スパンド EtherChannel と デバイス ローカル EtherChannel に対してスイッチを適切に設定します。
 - スパンド EtherChannel：クラスタユニット スパンド EtherChannel (クラスタのすべてのメンバに広がる) の場合は、複数のインターフェイスが結合されてスイッチ上の単一の EtherChannel となります。各インターフェイスがスイッチ上の同じチャンネル グループ内にあることを確認してください。



- デバイス ローカル EtherChannel : クラスタ ユニット デバイス ローカル EtherChannel (クラスタ制御リンク用に設定された EtherChannel もこれに含まれます) は、それぞれ独立した EtherChannel としてスイッチ上で設定してください。スイッチ上で複数のクラスタ ユニット EtherChannel を結合して 1 つの EtherChannel としないでください。



その他のガイドライン

- 大々的なトポロジ変更が発生する場合（EtherChannelインターフェイスの追加または削除、Firepower 4100/9300 シャーシ上でのインターフェイスまたはスイッチの有効化または無効化、VSS、vPC、StackWise、または StackWise Virtual を形成するための追加スイッチの追加など）、ヘルスチェック機能や無効なインターフェイスのインターフェイスモニタリングを無効にする必要があります。トポロジの変更が完了して、コンフィギュレーション変更がすべてのユニットに同期されたら、ヘルスチェック機能を再度イネーブルにできます。
- ユニットを既存のクラスタに追加したときや、ユニットをリロードしたときは、一時的に、限定的なパケット/接続ドロップが発生します。これは想定どおりの動作です。場合によっては、ドロップされたパケットが原因で接続がハングすることがあります。たとえば、FTP 接続の FIN/ACK パケットがドロップされると、FTP クライアントがハングします。この場合は、FTP 接続を再確立する必要があります。
- スパンド EtherChannel インターフェイスに接続された Windows 2003 Server を使用している場合、syslog サーバポートがダウンしたときにサーバが ICMP エラーメッセージを抑制

しないと、多数の ICMP メッセージがクラスタに送信されることとなります。このようなメッセージにより、クラスタの一部のユニットで CPU 使用率が高くなり、パフォーマンスに影響する可能性があります。ICMP エラーメッセージを調節することを推奨します。

- 冗長性を持たせるため、VSS、vPC、StackWise、または StackWise Virtual に EtherChannel を接続することを推奨します。
- シャーシ内では、スタンドアロン モードで一部のシャーシセキュリティ モジュールをクラスタ化し、他のセキュリティモジュールを実行することはできません。クラスタ内にすべてのセキュリティ モジュールを含める必要があります。
- 復号された TLS/SSL 接続の場合、復号状態は同期されず、接続オーナーに障害が発生すると、復号された接続がリセットされます。新しいユニットへの新しい接続を確立する必要があります。復号されていない接続（復号しないルールに一致）は影響を受けず、正しく複製されます。

デフォルト

- クラスタのヘルスチェック機能は、デフォルトで有効になり、ホールド時間は3秒です。デフォルトでは、すべてのインターフェイスでインターネットヘルスマonitoringが有効になっています。
- 失敗したクラスタ制御リンクのクラスタ自動再参加機能は、5分間隔で無制限に試行されるように設定されます。
- 失敗したデータインターフェイスのクラスタ自動再参加機能は、5分後と、2に設定された増加間隔で合計で3回試行されます。
- HTTP トラフィックでは、5秒間の接続複製遅延がデフォルトで有効になっています。

クラスタリングの設定

クラスタは、Firepower 4100/9300 スーパーバイザから簡単に展開できます。すべての初期設定が各ユニット用に自動生成されます。その後、ユニットを Management Center に追加し、1つのクラスタにグループ化できます。

FXOS : Threat Defense クラスタの追加

ネイティブモードの場合：シャーシ内のセキュリティモジュールに分離された単一の Firepower 9300 シャーシにクラスタを追加できます。または、複数のシャーシを使用できます。

マルチインスタンスモード：シャーシ内のセキュリティモジュールに分離された単一の Firepower 9300 シャーシに1つ以上のクラスタを追加できます（各モジュールにインスタンスを含める必要があります）。または、複数のシャーシに1つ以上のクラスタを追加できます。

複数のシャーシにわたるクラスタの場合は、各シャーシを個別に設定する必要があります。1つのシャーシにクラスタを追加したら、導入を簡単にするため、ブートストラップ設定を最初のシャーシから次のシャーシにコピーし、

Threat Defense クラスタの作成

クラスタは、Firepower 4100/9300 シャーシスーパーバイザから簡単に展開できます。すべての初期設定が各ユニット用に自動生成されます。

複数のシャーシにわたるクラスタリングの場合は、各シャーシを個別に設定する必要があります。導入を容易にするために、1つのシャーシにクラスタを導入し、その後、最初のシャーシから次のシャーシにブートストラップ コンフィギュレーションをコピーできます。

Firepower 9300 シャーシでは、モジュールがインストールされていない場合でも、3つのすべてのモジュール、またはコンテナインスタンス、各スロットの1つのコンテナインスタンスでクラスタリングを有効にする必要があります。3つすべてのモジュールを設定していないと、クラスタは機能しません。

始める前に

- 論理デバイスに使用するアプリケーションイメージを [Cisco.com](https://www.cisco.com) からダウンロードして、そのイメージを Firepower 4100/9300 シャーシにアップロードします。
- コンテナインスタンスに対して、デフォルトのプロファイルを使用しない場合は、[コンテナインスタンスにリソースプロファイルを追加](#)に従ってリソースプロファイルを追加します。
- コンテナインスタンスの場合、最初にコンテナインスタンスをインストールする前に、ディスクが正しいフォーマットになるようにセキュリティモジュール/エンジンを再度初期化する必要があります。[Security Modules] または [Security Engine] を選択して、[再初期化 (Reinitialize)] アイコン (🔄) をクリックします。既存の論理デバイスは削除されて新しいデバイスとして再インストールされるため、ローカルのアプリケーション設定はすべて失われます。ネイティブインスタンスをコンテナインスタンスに置き換える場合は、常にネイティブインスタンスを削除する必要があります。ネイティブインスタンスをコンテナインスタンスに自動的に移行することはできません。
- 次の情報を用意します。
 - 管理インターフェイス ID、IP アドレス、およびネットワークマスク
 - ゲートウェイ IP アドレス
 - Management Center 選択した IP アドレス/NAT ID
 - DNS サーバの IP アドレス
 - Threat Defense ホスト名とドメイン名

手順

ステップ1 インターフェイスを設定します。

- a) クラスタを展開する前に、1つ以上のデータタイプのインターフェイスまたはEtherChannel（ポートチャンネルとも呼ばれる）を追加します。[EtherChannel（ポートチャンネル）の追加](#)または[物理インターフェイスの設定](#)を参照してください。

複数のシャーシにわたるクラスタリングの場合は、すべてのデータインターフェイスが、少なくとも1つのメンバーインターフェイスを持つスパンド EtherChannel である必要があります。各シャーシに同じ EtherChannel を追加します。スイッチ上で、すべてのクラスタユニットからメンバーインターフェイスを1つの EtherChannel へと結合します。EtherChannel の詳細については、[クラスタリングガイドラインと制限事項（11 ページ）](#)を参照してください。

マルチインスタンスクラスタリングでは、クラスタ内でFXOS定義のVLANサブインターフェイスまたはデータ共有インターフェイスを使用できません。アプリケーション定義のサブインターフェイスのみがサポートされています。詳細については、「[FXOS インターフェイスとアプリケーションインターフェイス](#)」を参照してください。

- b) 管理タイプのインターフェイスまたは EtherChannel を追加します。[EtherChannel（ポートチャンネル）の追加](#)または[物理インターフェイスの設定](#)を参照してください。

管理インターフェイスが必要です。この管理インターフェイスは、シャーシの管理のみに使用されるシャーシ管理インターフェイスと同じではありません（FXOS では、シャーシ管理インターフェイスは MGMT、management0 のような名前が表示されます）。

複数のシャーシにわたるクラスタリングの場合、各シャーシに同じ管理インターフェイスを追加します。

マルチインスタンスのクラスタリングでは、同じシャーシ上の複数のクラスタ、またはスタンドアロンインスタンスで同じ管理インターフェイスを共有できます。

- c) 複数のシャーシにわたるクラスタリングでは、メンバーインターフェイスをクラスタ制御リンクの EtherChannel（デフォルトではポートチャンネル 48）に追加します。[EtherChannel（ポートチャンネル）の追加](#)を参照してください。

1つの Firepower 9300 シャーシ内のセキュリティモジュールに隔離されたクラスタのメンバーインターフェイスを追加しないでください。メンバーを追加すると、シャーシはこのクラスタが複数のシャーシを使用すると見なし、たとえば、スパンド EtherChannel の使用のみが許可されます。

[インターフェイス (Interfaces)] タブで、ポートチャンネル 48 クラスタタイプのインターフェイスは、メンバーインターフェイスが含まれていない場合は、[動作状態 (Operation State)] を [失敗 (failed)] と表示します。1つの Firepower 9300 シャーシ内のセキュリティモジュールに隔離されたクラスタの場合、この EtherChannel はメンバーインターフェイスを必要としないため、この動作状態は無視して構いません。

各シャーシに同じメンバーインターフェイスを追加します。クラスタ制御リンクは、各シャーシのデバイスローカル EtherChannel です。デバイスごとにスイッチで個別の EtherChannel

を使用します。EtherChannel の詳細については、[クラスタリング ガイドラインと制限事項 \(11 ページ\)](#) を参照してください。

マルチインスタンスクラスタリングの場合は、追加のクラスタタイプの EtherChannel を作成できます。管理インターフェイスとは異なり、クラスタ制御リンクを複数のデバイスで共有することはできないため、クラスタごとにクラスタインターフェイスが必要になります。ただし、複数の Etherchannel の代わりに VLAN サブインターフェイスを使用することを推奨します。クラスタインターフェイスに VLAN サブインターフェイスを追加するには、次の手順を参照してください。

- d) マルチインスタンスクラスタリングの場合、クラスタごとに1つのサブインターフェイスを使用できるように、クラスタ EtherChannel に VLAN サブインターフェイスを追加できます。[コンテナインスタンスの VLAN サブインターフェイスの追加](#) を参照してください。

クラスタインターフェイスにサブインターフェイスを追加した場合、そのインターフェイスをネイティブクラスタには使用できません。

- e) (任意) イベントインターフェイスを追加します。[EtherChannel \(ポートチャネル\) の追加または物理インターフェイスの設定](#) を参照してください。

このインターフェイスは、Threat Defense デバイスのセカンダリ管理インターフェイスです。このインターフェイスを使用するには、Threat Defense CLI で IP アドレスなどのパラメータを設定する必要があります。たとえば、イベント (Web イベントなど) から管理トラフィックを分類できます。Threat Defense コマンドリファレンスの **configure network** コマンドを参照してください。

複数のシャーシにわたるクラスタリングの場合、各シャーシに同じイベントインターフェイスを追加します。

ステップ 2 [論理デバイス (Logical Devices)] を選択します。

ステップ 3 [追加 (Add)] > [クラスタ (Cluster)] をクリックし、次のパラメータを設定します。

図 1: ネイティブクラスタ

Field	Value
I want to:	Create New Cluster
Device Name:	cluster1
Template:	Cisco Secure Firewall Threat Defense
Image Version:	7.3.0.1676
Instance Type:	Native

図 2: マルチインスタンスクラスタ

- a) [必要な操作 (I want to:)] > [新しいクラスタの作成 (Create New Cluster)] を選択します。
- b) デバイス名を入力します。
この名前は、シャースーパーバイザが管理設定を行ってインターフェイスを割り当てるために内部で使用します。これはアプリケーション設定で使用されるデバイス名ではありません。
- c) [Template] では、[Cisco Firepower Threat Defense] を選択します。
- d) [Image Version] を選択します。
- e) [Instance Type] の場合、[Native] または [Container] を選択します。
ネイティブインスタンスはセキュリティモジュール/エンジンのすべてのリソース (CPU、RAM、およびディスク容量) を使用するため、ネイティブインスタンスを1つだけインストールできません。コンテナインスタンスでは、セキュリティモジュール/エンジンのリソースのサブセットを使用するため、複数のコンテナインスタンスをインストールできます。
- f) (コンテナインスタンスのみ) [リソースタイプ (Resource Type)] で、ドロップダウンリストからいずれかのリソースプロファイルを選択します。

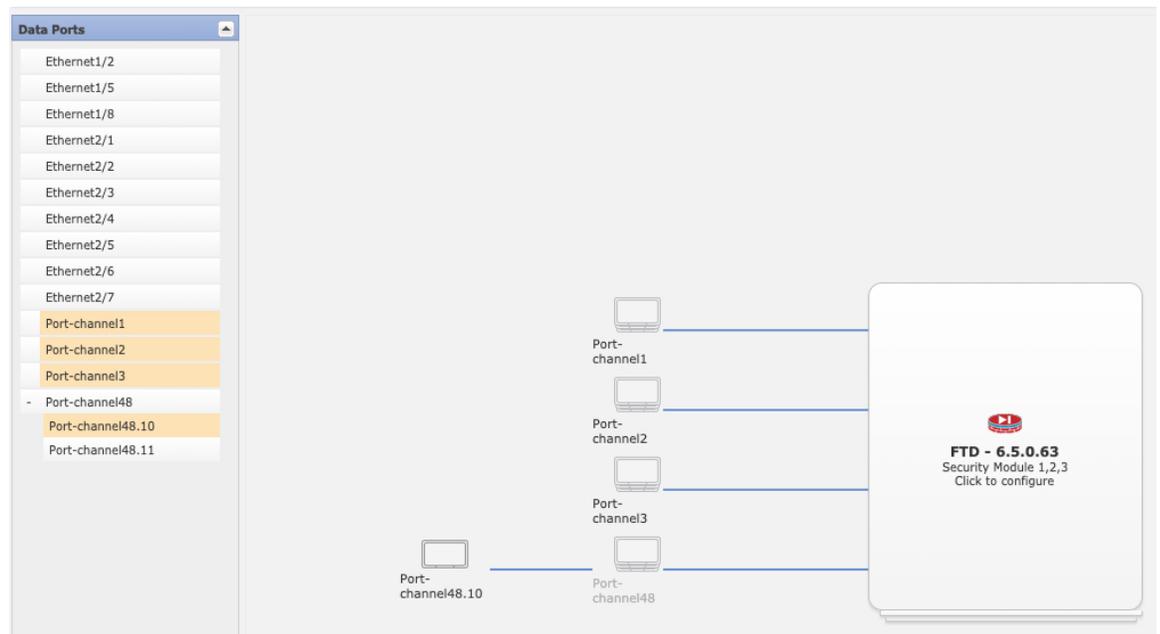
Firepower 9300 の場合、このプロファイルは各セキュリティモジュールの各インスタンスに適用されます。この手順の後半では、セキュリティモジュールごとに異なるプロファイルを設定できます。たとえば、異なるセキュリティモジュールのタイプを使用していて、ローエンドのモデルでより多くの CPU を使用する場合に設定できます。クラスタを作成する前に、正しいプロファイルを選択することを推奨します。新しいプロファイルを作成する必要がある場合は、クラスタの作成をキャンセルし、[コンテナインスタンスにリソースプロファイルを追加](#) を使用して 1 つ追加します。

(注) 確立されたクラスター内のインスタンスに異なるプロファイルを割り当てる場合は、プロファイルが一致する必要がないため、最初に新しいプロファイルをデータノードに適用します。再起動して復旧したら、新しいプロファイルを制御ノードに適用できます。

g) [OK] をクリックします。

[Provisioning - *device name*] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 このクラスターに割り当てるインターフェイスを選択します。



ネイティブモードのクラスタリングの場合：デフォルトでは、すべての有効なインターフェイスが割り当てられます。マルチクラスタタイプのインターフェイスを定義した場合は、すべての選択を解除し、1つのみ選択します。

マルチインスタンスクラスタリングの場合：クラスターに割り当てる各データインターフェイスを選択し、クラスタタイプのポートチャネルまたはポートチャネルのサブインターフェイスも選択します。

ステップ 5 画面中央のデバイス アイコンをクリックします。

ダイアログボックスが表示され、初期のブートストラップ設定を行うことができます。これらの設定は、初期導入専用、またはディザスタリカバリ用です。通常の運用では、後でアプリケーション CCLI 設定のほとんどの値を変更できます。

ステップ 6 [クラスタ情報 (Cluster Information)] ページで、次の手順を実行します。

図 3: ネイティブクラスタ

Cisco Secure Firewall Threat Defense - Bootstrap Configuration

Cluster Information Interface Information Settings Agreement

Security Module
Security Module - 1, Security Module - 2, Security Module - 3

Interface Information

Chassis ID:

Site ID:

Cluster Key:

Confirm Cluster Key:

Cluster Group Name:

Management Interface:

CCL Subnet IP:

OK Cancel

図 4: マルチインスタンスクラスタ

Cisco Secure Firewall Threat Defense - Bootstrap Configuration

Cluster Information Interface Information Settings Agreement

Resource Profile Selection

Security Module 1:
(72 Cores Available)

Security Module 2:
(46 Cores Available)

Security Module 3:

Interface Information

Chassis ID:

Site ID:

Cluster Key:

Confirm Cluster Key:

Cluster Group Name:

Management Interface:

CCL Subnet IP:

OK Cancel

- a) (Firepower 9300 のコンテナインスタンスのみ) [セキュリティモジュール (SM) とリソースプロファイルの選択 (Security Module (SM) and Resource Profile Selection)] エリアで、モジュールごとに異なるリソースプロファイルを設定できます。たとえば、異なるセキュリティモジュールのタイプを使用していて、ローエンドのモデルでより多くの CPU を使用する場合に設定できます。
- b) 複数のシャーシにわたるクラスタリングの場合は、[シャーシ ID (Chassis ID)] フィールドにシャーシ ID を入力します。クラスタの各シャーシに固有の ID を使用する必要があります。

このフィールドは、クラスタ制御リンク Port-Channel 48 にメンバーインターフェイスを追加した場合にのみ表示されます。

- c) サイト間クラスタリングの場合、[サイト ID (Site ID)] フィールドに、このシャーシのサイト ID を 1～8 の範囲で入力します。FlexConfig 機能。ディレクタのローカリゼーション、サイト冗長性、クラスタフローモビリティなど、冗長性と安定性を向上させることを目的としたサイト間クラスタの追加のカスタマイズは、Management Center FlexConfig 機能を使用した場合にのみ設定できます。
- d) [Cluster Key] フィールドで、クラスタ制御リンクの制御トラフィック用の認証キーを設定します。

共有秘密は、1～63 文字の ASCII 文字列です。共有秘密は、キーを生成するために使用されます。このオプションは、データパストラフィック（接続状態アップデートや転送されるパケットなど）には影響しません。データパストラフィックは、常にクリアテキストとして送信されます。

- e) [クラスタグループ名 (Cluster Group Name)] を設定します。これは、論理デバイス設定のクラスタグループ名です。

名前は 1～38 文字の ASCII 文字列であることが必要です。

重要 2.4.1 以降、クラスタグループ名のスペースは特殊文字と見なされ、論理デバイスの展開時にエラーが発生する可能性があります。この問題を回避するには、クラスタグループ名をスペースのない名前に変更する必要があります。

- f) [Management Interface] を選択します。

このインターフェイスは、論理デバイスを管理するために使用されます。このインターフェイスは、シャーシ管理ポートとは別のものです。

ハードウェアバイパス対応のインターフェイスをマネジメントインターフェイスとして割り当てると、割り当てが意図的であることを確認する警告メッセージが表示されます。

- g) (任意) **CCL サブネット IP** を *a.b.0.0* に設定します。

クラスタ制御リンクのデフォルトでは 127.2.0.0/16 ネットワークが使用されます。ただし、一部のネットワーク展開では、127.2.0.0/16 トラフィックはパスできません。この場合、クラスタの固有ネットワークに任意の/16 ネットワークアドレスを指定します（ループバック (127.0.0.0/8)、マルチキャスト (224.0.0.0/4)、内部 (169.254.0.0/16) のアドレスを除く)。値を 0.0.0.0 に設定すると、デフォルトのネットワークが使用されます。

シャーシは、シャーシ ID とスロット ID (*a.b.chassis_id.slot_id*) に基づいて、各ユニットのクラスタ制御リンク インターフェイスの IP アドレスを自動生成します。

ステップ 7 [設定 (Settings)] ページで、以下を実行します。

Cisco Secure Firewall Threat Defense - Bootstrap Configuration

Cluster Information Interface Information Settings Agreement

Management type of application instance:	FMC
Search domains:	cisco.com
Firewall Mode:	Routed
DNS Servers:	10.89.5.67
Fully Qualified Hostname:	td2.cisco.com
Password:
Confirm Password:
Registration Key:
Confirm Registration Key:
CDO Onboard:	
Confirm CDO Onboard:	
Firepower Management Center IP:	10.89.5.35
Firepower Management Center NAT ID:	test
Eventing Interface:	

OK Cancel

- [登録キー (Registration Key)] フィールドに、登録時に Management Center とクラスタメンバー間で共有するキーを入力します。
このキーには、1～37文字の任意のテキスト文字列を選択できます。脅威に対する防御を追加するときに、Management Center に同じキーを入力します。
- CLI アクセス用の脅威に対する防御管理ユーザの [Password] を入力します。
- [Firepower Management CenterのIP (Firepower Management Center IP)] フィールドに、管理側の Management Center の IP アドレスを入力します。Management Center の IP アドレ

スがわからない場合は、このフィールドを空白のままにして、[Firepower Management Center NAT ID] フィールドにパスフレーズを入力します。

- d) (任意) **FTD SSH セッションからエキスパートモード**、[Yes]、または [No] を許可します。エキスパートモードでは、高度なトラブルシューティングに脅威に対する防御シェルからアクセスできます。

このオプションで [Yes] を選択すると、SSH セッションからコンテナインスタンスに直接アクセスするユーザがエキスパートモードを開始できます。[いいえ (No)] を選択した場合、FXOS CLI からコンテナインスタンスにアクセスするユーザーのみがエキスパートモードを開始できます。インスタンス間の分離を増やすには、[No] を選択することをお勧めします。

マニュアルの手順で求められた場合、または Cisco Technical Assistance Center から求められた場合のみ、エキスパートモードを使用します。このモードを開始するには、脅威に対する防御 CLI で **expert** コマンドを使用します。

- e) (任意) [Search Domains] フィールドに、管理ネットワークの検索ドメインのカンマ区切りのリストを入力します。
- f) (任意) [ファイアウォールモード (Firewall Mode)] ドロップダウンリストから、[トランスペアレント (Transparent)] または [ルーテッド (Routed)] を選択します。

ルーテッドモードでは、脅威に対する防御はネットワーク内のルータホップと見なされます。ルーティングを行う各インターフェイスは異なるサブネット上にあります。一方、トランスペアレントファイアウォールは、「Bump In The Wire」または「ステルスファイアウォール」のように機能するレイヤ2ファイアウォールであり、接続されたデバイスへのルータホップとしては認識されません。

ファイアウォールモードは初期展開時のみ設定します。ブートストラップの設定を再適用する場合、この設定は使用されません。

- g) (任意) [DNSサーバ (DNS Servers)] フィールドに、DNSサーバのカンマ区切りのリストを入力します。

たとえば、Management Centerのホスト名を指定する場合、脅威に対する防御はDNSを使用します。

- h) (任意) [Firepower Management Center NAT ID] フィールドにパスフレーズを入力します。このパスフレーズは、新しいデバイスとしてクラスタを追加するときにManagement Centerでも入力します。

通常は、ルーティングと認証の両方の目的で両方のIPアドレス（登録キー付き）が必要です。Management CenterがデバイスのIPアドレスを指定し、デバイスがManagement CenterのIPアドレスを指定します。ただし、IPアドレスの1つのみがわかっている場合（ルーティング目的の最小要件）は、最初の通信用に信頼を確立して正しい登録キーを検索するために、接続の両側に一意のNAT IDを指定する必要もあります。NAT IDとして、1~37文字の任意のテキスト文字列を指定できます。Management Centerおよびデバイスでは、初期登録の認証と承認を行うために、登録キーおよびNAT ID（IPアドレスではなく）を使用します。

- i) (任意) [Fully Qualified Hostname] フィールドに、脅威に対する防御 デバイスの完全修飾名を入力します。

有効な文字は、a - z の文字、0 - 9 の数字、ドット (.)、ハイフン (-) です。最大文字数は 253 です。

- j) (任意) [イベントインテリングインターフェイス (Eventing Interface)] ドロップダウンリストから、イベントを送信するインターフェイスを選択します。指定しない場合は、管理インターフェイスが使用されます。

イベントに使用する別のインターフェイスを指定するには、*firepower-eventing* インターフェイスとしてインターフェイスを設定する必要があります。ハードウェアバイパス対応のインターフェイスを **Eventing** インターフェイスとして割り当てると、割り当てが意図的であることを確認する警告メッセージが表示されます。

- ステップ 8** [インターフェイス情報 (Interface Information)] ページで、クラスタ内のセキュリティモジュールのそれぞれに管理 IP アドレスを設定します。[アドレスタイプ (Address Type)] ドロップダウンリストからアドレスのタイプを選択し、セキュリティモジュールごとに次の手順を実行します。

(注) モジュールがインストールされていない場合でも、シャーシの3つすべてのモジュールスロットで IP アドレスを設定する必要があります。3つすべてのモジュールを設定しないと、クラスタは機能しません。

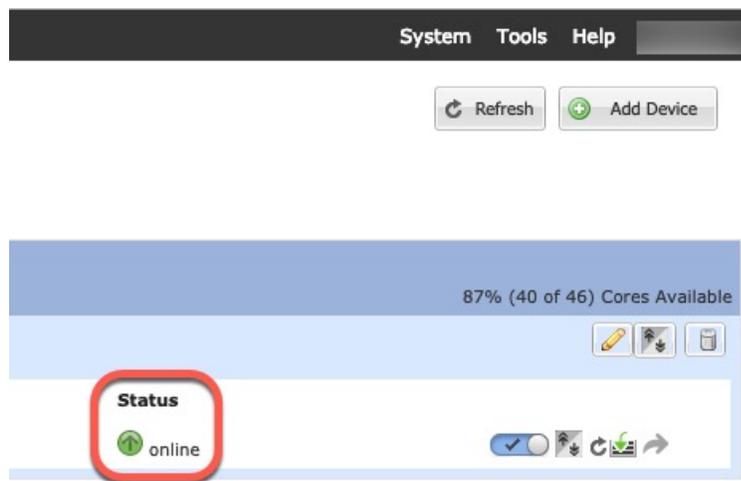
- a) [Management IP] フィールドで、IP アドレスを設定します。
モジュールごとに同じネットワーク上の一意の IP アドレスを指定します。
- b) [Network Mask] または [Prefix Length] に入力します。
- c) ネットワーク ゲートウェイ アドレスを入力します。

- ステップ 9** [利用規約 (Agreement)] タブで、エンドユーザライセンス (EULA) を読んで、同意します。

ステップ 10 [OK] をクリックして、設定ダイアログボックスを閉じます。

ステップ 11 [保存 (Save)] をクリックします。

シャーシは、指定したソフトウェアバージョンをダウンロードし、アプリケーションインスタンスにブートストラップ設定と管理インターフェイス設定をプッシュすることで、論理デバイスを導入します。[**論理デバイス (Logical Devices)**] ページで、新しい論理デバイスのステータスを確認します。論理デバイスの [**ステータス (Status)**] に [**オンライン (Online)**] と表示されている場合は、残りのクラスタシャーシを追加できます。また、1 つの Firepower 9300 シャーシ内のセキュリティモジュールに隔離されたクラスタの場合は、アプリケーションのクラスタの設定を開始できます。このプロセスの一環として、[**セキュリティモジュールが応答していません (Security module not responding)**] というステータスが表示されることがあります。このステータスは正常であり、一時的な状態です。



ステップ 12 複数のシャーシにわたるクラスタリングの場合は、クラスタに次のシャーシを追加します。

- Chassis Manager の最初のシャーシで、右上の [**設定の表示 (Show Configuration)**] アイコンをクリックして、表示されるクラスタ設定をコピーします。
- 次のシャーシの Chassis Manager に接続し、この手順に従って論理デバイスを追加します。
- [**必要な操作 (I want to:)**] > [**既存のクラスタへの参加 (Join an Existing Cluster)**] を選択します。
- [**OK**] をクリックします。
- [**クラスタ詳細のコピー (Copy Cluster Details)**] ボックスに、最初のシャーシのクラスタ設定を貼り付け、[**OK**] をクリックします。
- 画面中央のデバイスアイコンをクリックします。クラスタ情報は大半は事前に入力済みですが、次の設定は変更する必要があります。

- [**シャーシ ID (Chassis ID)**] : 一意のシャーシ ID を入力します。

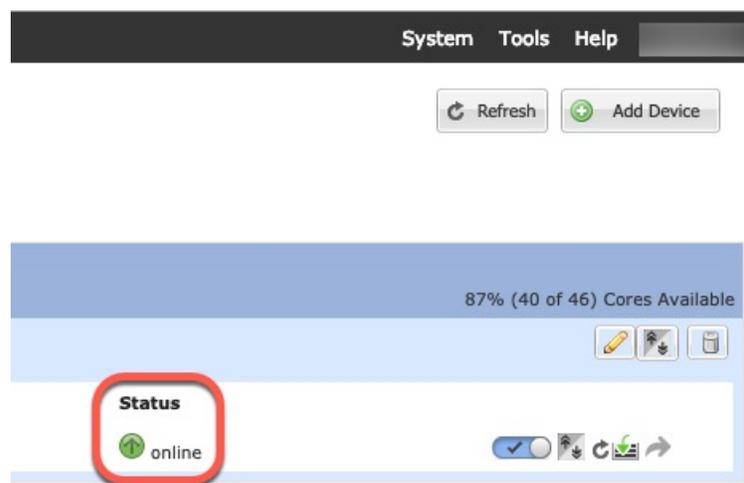
- **Site ID** : サイト間クラスタリングの場合、このシャーシのサイト ID (1 ~ 8) を入力します。ディレクトタのローカリゼーション、サイト冗長性、クラスタフローモビリティなど、冗長性と安定性を向上させることを目的としたサイト間クラスタの追加のカスタマイズは、Management Center FlexConfig 機能を使用した場合にのみ設定できます。

- [クラスタ キー (Cluster Key)] : (事前に入力されていない) 同じクラスタ キーを入力します。
- [管理 IP (Management IP)] : 各モジュールの管理アドレスを、他のクラスタメンバーと同じネットワーク上に存在する一意の IP アドレスとなるように変更します。

[OK] をクリックします。

g) [保存 (Save)] をクリックします。

シャーンは、指定したソフトウェアバージョンをダウンロードし、アプリケーションインスタンスにブートストラップ設定と管理インターフェイス設定をプッシュすることで、論理デバイスを導入します。各クラスタメンバーの [論理デバイス (Logical Devices)] ページで、新しい論理デバイスのステータスを確認します。各クラスタメンバーの論理デバイスの [ステータス (Status)] に [オンライン (Online)] と表示されたら、アプリケーションでクラスタの設定を開始できます。このプロセスの一環として、[セキュリティモジュールが応答していません (Security module not responding)] というステータスが表示されることがあります。このステータスは正常であり、一時的な状態です。



ステップ 13 管理 IP アドレスを使用して、Management Center に制御ユニットを追加します。

すべてのクラスタ ユニットは、Management Center に追加する前に、FXOS で正常な形式のクラスタ内に存在している必要があります。

Management Center がデータユニットを自動的に検出します。

クラスタノードの追加

既存のクラスタ内の脅威に対する防御 クラスタノードを追加または交換します。FXOS に新しいクラスタノードを追加すると、Management Center によりノードが自動的に追加されます。



- (注) このプロシージャにおける FXOS の手順は、新しいシャーシの追加のみに適用されます。クラスタリングがすでに有効になっている Firepower 9300 に新しいモジュールを追加する場合、モジュールは自動的に追加されます。

始める前に

- 置き換える場合は、Management Center から古いクラスタノードを削除する必要があります。新しいノードに置き換えると、Management Center 上の新しいデバイスとみなされません。
- インターフェイスの設定は、新しいシャーシでの設定と同じである必要があります。FXOS シャーシ設定をエクスポートおよびインポートし、このプロセスを容易にすることができます。

手順

ステップ 1 以前に Management Center を使用して 脅威に対する防御 イメージをアップグレードした場合は、クラスタ内の各シャーシで次の手順を実行します。

Management Center からアップグレードしたときに、FXOS 設定のスタートアップバージョンが更新されておらず、スタンドアロンパッケージがシャーシにインストールされていませんでした。新しいノードが正しいイメージバージョンを使用してクラスタに参加できるように、これらの項目は両方とも手動で設定する必要があります。

(注) パッチリリースのみを適用した場合は、この手順をスキップできます。シスコではパッチ用のスタンドアロンパッケージを提供していません。

- a) [システム (System)] > [更新 (Updates)] ページを使用して、実行中の脅威に対する防御イメージをシャーシにインストールします。
- b) [論理デバイス (Logical Devices)] をクリックし、[バージョンの設定 (Set Version)] アイコン (🔧) をクリックします。複数のモジュールを備えた Firepower 9300 の場合、各モジュールのバージョンを設定します。

[スタートアップバージョン (Startup Version)] には、展開した元のパッケージが表示されます。[現在のバージョン (Current Version)] には、アップグレード後のバージョンが表示されます。

- c) [新しいバージョン (New Version)] ドロップダウンメニューで、アップロードしたバージョンを選択します。このバージョンは、表示されている [現在のバージョン (Current Version)] と一致する必要があり、スタートアップバージョンが新しいバージョンと一致するように設定されます。
- d) 新しいシャーシに、新しいイメージパッケージがインストールされていることを確認します。

- ステップ 2** 既存のクラスタシャーシ Chassis Manager で、[論理デバイス (Logical Devices)] をクリックします。
- ステップ 3** 右上の [設定の表示 (Show Configuration)] アイコンをクリックし、表示されるクラスタ設定をコピーします。
- ステップ 4** 新しいシャーシの Chassis Manager に接続して、[追加 (Add)] > [クラスタ (Cluster)] をクリックします。
- ステップ 5** [デバイス名 (Device Name)] に論理デバイスの名前を入力します。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。
- ステップ 7** [クラスタ詳細のコピー (Copy Cluster Details)] ボックスに、最初のシャーシのクラスタ設定を貼り付け、[OK] をクリックします。
- ステップ 8** 画面中央のデバイスアイコンをクリックします。クラスタ情報の一部は事前に入力済みですが、次の設定は入力する必要があります。

図 5: クラスタ情報

Cisco Secure Firewall Threat Defense - Bootstrap Configuration

Cluster Information | Interface Information | Settings | Agreement

Security Module
Security Module - 1, Security Module - 2, Security Module - 3

Interface Information

Chassis ID:

Site ID:

Cluster Key:

Confirm Cluster Key:

Cluster Group Name:

Management Interface:

CCL Subnet IP:

OK Cancel

図 6: インターフェイス情報

Cisco Secure Firewall Threat Defense - Bootstrap Configuration

Cluster Information **Interface Information** Settings Agreement

Address Type: IPv4 only

Security Module 1

Management IP:

Network Mask: 255.255.255.192

Gateway: 10.89.5.1

Security Module 2

Management IP:

Network Mask: 255.255.255.192

Gateway: 10.89.5.1

Security Module 3

Management IP:

Network Mask: 255.255.255.192

Gateway: 10.89.5.1

OK Cancel

図 7: 設定

Cisco Secure Firewall Threat Defense - Bootstrap Configuration

Cluster Information Interface Information **Settings** Agreement

Management type of application instance: FMC

Search domains: cisco.com

Firewall Mode: Routed

DNS Servers: 72.163.47.11

Fully Qualified Hostname:

Password:

Confirm Password:

Registration Key:

Confirm Registration Key:

CDO Onboard:

Confirm CDO Onboard:

Firepower Management Center IP: 10.89.5.35

Firepower Management Center NAT ID: 93002

Eventing Interface:

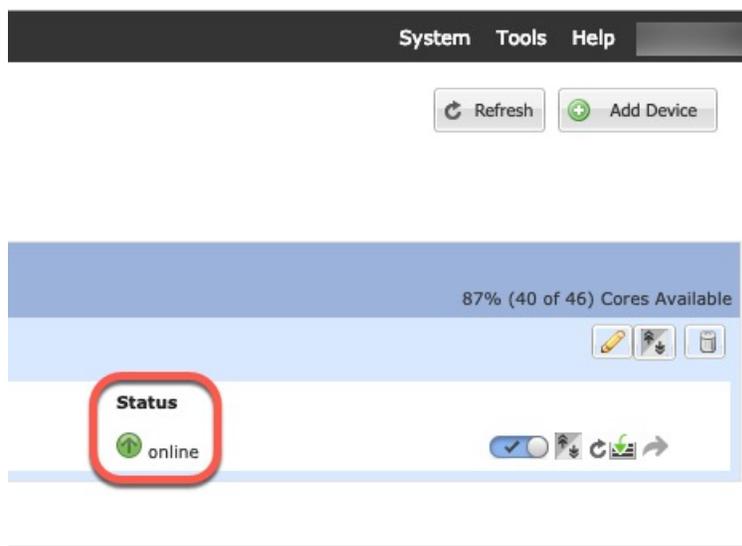
OK Cancel

- [シャーシID (Chassis ID)] : 一意のシャーシ ID を入力します。
- **Site ID** : サイト間クラスタリングの場合、このシャーシのサイト ID (1 ~ 8) を入力します。この機能は、Management Center FlexConfig 機能を使用した場合にのみ構成可能です。
- [クラスタキー (Cluster Key)] : 同じクラスタキーを入力します。
- [管理IP (Management IP)] : 各モジュールの管理アドレスを、他のクラスタメンバーと同じネットワーク上に存在する一意の IP アドレスとなるように変更します。
- [完全就職ホスト名 (Fully Qualified Hostname)] : 同じホスト名を入力します。
- [パスワード (Password)] : 同じパスワードを入力します。
- [登録キー (Registration Key)] : 同じ登録キーを入力します。

[OK] をクリックします。

ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。

シャーシは、指定したソフトウェアバージョンをダウンロードし、アプリケーションインスタンスにブートストラップ設定と管理インターフェイス設定をプッシュすることで、論理デバイスを導入します。各クラスタメンバーの [論理デバイス (Logical Devices)] ページで、新しい論理デバイスのステータスを確認します。各クラスタメンバーの論理デバイスの [ステータス (Status)] に [オンライン (Online)] と表示されたら、アプリケーションでクラスタの設定を開始できます。このプロセスの一環として、[セキュリティモジュールが応答していません (Security module not responding)] というステータスが表示されることがあります。このステータスは正常であり、一時的な状態です。



Management Center : クラスタの追加

クラスタユニットのいずれかを新しいデバイスとして Secure Firewall Management Center に追加します。Management Center は、他のすべてのクラスタメンバーを自動検出します。

始める前に

- すべてのクラスタユニットは、Management Center に追加する前に、FXOS 上にある正常な形式のクラスタ内に存在している必要があります。また、どのユニットが制御ユニットかを確認することも必要です。Chassis Manager の [論理デバイス (Logical Devices)] 画面を参照するか、Threat Defense の **show cluster info** コマンドを使用します。

手順

- ステップ 1** Management Center で、[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択してから、[追加 (Add)] > [デバイスの追加 (Add Device)] を選択し、クラスタを展開したときに割り当てた制御ユニットの管理 IP アドレスを使用して制御ユニットを追加します。

図 8: デバイスの追加

Add Device ?

CDO Managed Device

Host:†

Display Name:

Registration Key:*

Group:

Access Control Policy:*

Smart Licensing
Note: All virtual Firewall Threat Defense devices require a performance tier license. Make sure your Smart Licensing account contains the available licenses you need. It's important to choose the tier that matches the license you have in your account. Click [here](#) for information about the Firewall Threat Defense performance-tiered licensing. Until you choose a tier, your Firewall Threat Defense virtual defaults to the FTDv50 selection.

Performance Tier (only for Firewall Threat Defense virtual 7.0 and above):

Malware
 Threat
 URL Filtering

Advanced
Unique NAT ID:†

Transfer Packets

- a) [ホスト (Host)] フィールドに、制御ユニットの IP アドレスまたはホスト名を入力します。

最適なパフォーマンスを得るため、制御ユニットの追加を推奨しますが、クラスタの任意のユニットを追加できます。

デバイスのセットアップ時に NAT ID を使用した場合は、このフィールドを入力する必要がない可能性があります。詳細については、「[NAT 環境](#)」を参照してください。

- b) [表示名 (Display Name)] フィールドに、Management Center での制御ユニットの表示名を入力します。

この表示名はクラスタ用ではありません。追加する制御ユニット専用です。後で、他のクラスタメンバーの名前やクラスタ表示名を変更できます。

- c) [登録キー (Registration Key)] フィールドに、FXOS にクラスタを展開したときに使用したのと同じ登録キーを入力します。登録キーは、1 回限り使用可能な共有シークレットです。
- d) (任意) デバイスをデバイスグループに追加します。
- e) 登録後すぐに、デバイスに展開する最初の [アクセスコントロールポリシー (Access Control Policy)] を選択するか、新しいポリシーを作成します。

新しいポリシーを作成する場合は、基本ポリシーのみを作成します。必要に応じて、後でポリシーをカスタマイズできます。

New Policy

Name:

Description:

Select Base Policy:

Default Action:
 Block all traffic
 Intrusion Prevention
 Network Discovery

Snort3:

- f) デバイスに適用するライセンスを選択します。
- g) デバイスの設定時に、NAT ID を使用した場合、[詳細 (Advanced)] セクションを展開し、[一意の NAT ID (Unique NAT ID)] フィールドに同じ NAT ID を入力します。
- h) [パケットの転送 (Transfer Packets)] チェックボックスをオンにし、デバイスで Management Center にパケットを転送することを許可します。

このオプションは、デフォルトで有効です。このオプションを有効にして IPS や Snort などのイベントがトリガーされた場合は、デバイスが検査用としてイベントメタデータ情報とパケットデータを Management Center に送信します。このオプションを無効にした場合は、イベント情報だけが Management Center に送信され、パケットデータは送信されません。

- i) [登録 (Register)] をクリックします。

Management Center は、制御ユニットを識別して登録した後に、すべてのデータユニットを登録します。制御ユニットが正常に登録されていない場合、クラスタは追加されません。クラスタがシャーンシで稼働状態になかったか、その他の接続問題が原因で、登録エラーが発生する場合があります。こうした状況では、クラスタユニットを再度追加することをお勧めします。

[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] ページにクラスタ名が表示されます。クラスタを展開して、クラスタユニットを表示します。

<input type="checkbox"/>	Name	Model	Versl...	Chassis	Licenses	Access Control Policy	Auto RollBack	
<input type="checkbox"/>	▼ Ungrouped (2)							
<input type="checkbox"/>	10.10.1.12 <small>Snort 3</small> 10.10.1.12 - Routed	FTDv for VMware	7.3.0	N/A	Essentials	wfx_automation1	↔	✎ ⋮
<input type="checkbox"/>	▼ TD_Cluster (1) Cluster							✎ ⋮
<input checked="" type="checkbox"/>	10.10.1.13(Control) <small>Snort 3</small> 10.10.1.13 - Routed	FTDv for VMware	7.3.0	N/A	Essentials	wfx_automation1	N/A	⋮

現在登録されているユニットには、ロードアイコンが表示されます。

<input type="checkbox"/>	▼ TD_Cluster (1) Cluster
<input checked="" type="checkbox"/>	10.10.1.13(Control) <small>Snort 3</small> 10.10.1.13 - Routed

クラスタユニットの登録をモニターするには、[通知 (Notifications)] アイコンをクリックし、[タスク (Tasks)] を選択します。Management Center は、ユニットの登録ごとにクラスタ登録タスクを更新します。いずれかのユニットの登録に失敗した場合には、[クラスタメンバーの照合 \(53 ページ\)](#) を参照してください。

Deploy			admin ▼
Deployments	Upgrades	Health	Tasks
3 total	0 running	3 success	0 warnings
0 failures	Filter		Show Notifications
<input checked="" type="checkbox"/>	10.10.1.12	Deployment to device successful.	1m 54s
<input checked="" type="checkbox"/>	10.10.1.13	Deployment to device successful.	1m 3s
<input checked="" type="checkbox"/>	TD_Cluster	Deployment to device successful.	35s

ステップ 2 クラスタの [編集 (Edit)] (✎) をクリックして、デバイス固有の設定を指定します。

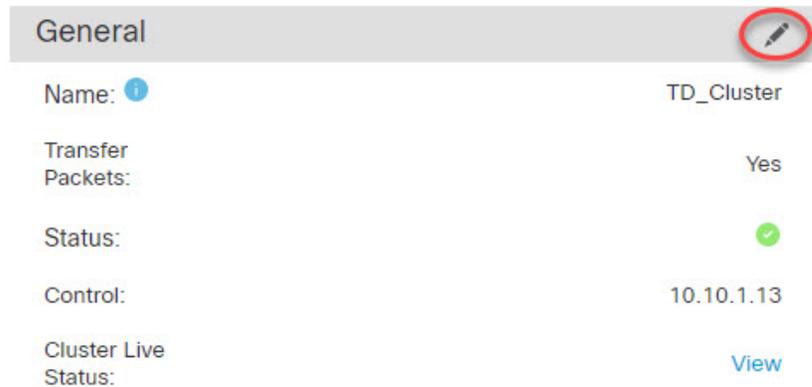
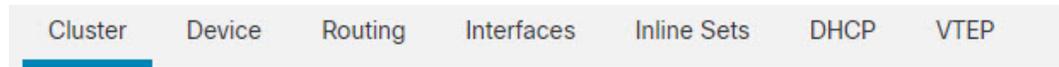
ほとんどの設定は、クラスタ内のメンバーユニットではなくクラスタ全体に適用できます。たとえば、ユニットごとに表示名を変更できますが、インターフェイスはクラスタ全体についてのみ設定できます。

ステップ 3 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスタ (Cluster)] 画面に、[全般 (General)]、[ライセンス (License)]、[システム (System)]、および [ヘルス (Health)] の設定が表示されます。

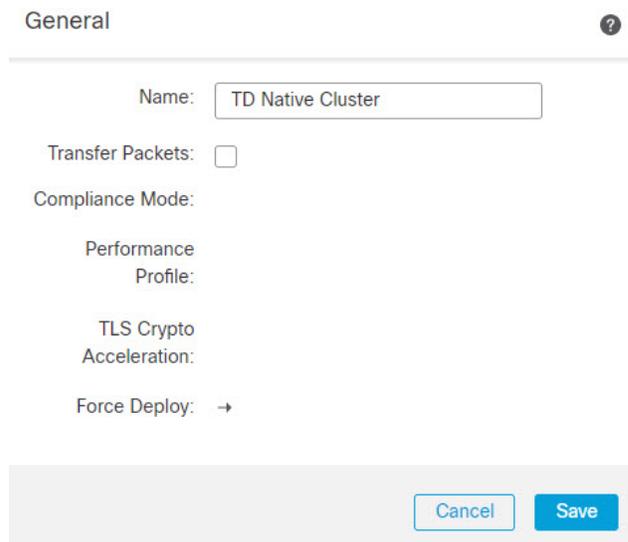
TD Native Cluster	
Cisco Firepower Threat Defense for VMware	
Cluster	Device
Routing	Interfaces
Inline Sets	DHCP
VTEP	
10.10.1.13	
10.10.1.13	
General	System

次のクラスタ固有の項目を参照してください。

- [全般 (General)] > [名前 (Name)] : [編集 (Edit)] (✎) をクリックして、クラスタの表示名を変更します。



その後に、[名前 (Name)] フィールドを設定します。



- [全般 (General)] > [クラスタステータスの表示 (View cluster status)] : [クラスタステータスの表示 (View cluster status)] リンクをクリックして [クラスタステータス (Cluster Status)] ダイアログボックスを開きます。

Cluster Device Routing Interfaces Inline Sets DHCP VTEP

General 

Name:  TD Native Cluster

Transfer Packets: Yes

Status: 

Control: 10.10.1.13

Cluster Live Status: 

[クラスタステータス (Cluster Status)] ダイアログボックスで、[照合 (Reconcile)] をクリックしてデータユニットの登録を再試行することもできます。

Cluster Status (2 Nodes)  

Status	Device Name	Unit Name	Chassis URL
In Sync.	10.89.5.20	unit-1-1	https://firepower-9300.c...
In Sync.	10.89.5.21	unit-1-2	https://firepower-9300.c...

Dated: 14 Jan 2020 | 01:51:51

- [全般 (General)] > [トラブルシューティング (Troubleshoot)] : トラブルシューティングログを生成およびダウンロードしたり、クラスタ CLI を表示したりできます。 [Management Center : クラスタのトラブルシューティング \(59 ページ\)](#) を参照してください。

図 9: トラブルシューティング

General 

Name:  clusterVFTD

Transfer Packets: Yes

Status: 

Control: 10.10.43.21

Cluster Live Status: [View](#)

Troubleshoot: 

- [ライセンス (License)] : [編集 (Edit)] (✎) をクリックして、ライセンス付与資格を設定します。

ステップ 4 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [デバイス (Devices)] の右上のドロップダウンメニューで、クラスタ内の各メンバーを選択し、次の設定を指定することができます。

- [全般 (General)] > [名前 (Name)] : [編集 (Edit)] (✎) をクリックして、クラスタメンバーの表示名を変更します。

General	
Name:	10.89.5.21
Transfer Packets:	Yes
Mode:	routed
Compliance Mode:	None
TLS Crypto Acceleration:	Enabled

その後に、[名前 (Name)] フィールドを設定します。

General ?

Name:

Transfer Packets:

Mode: routed

Compliance Mode: None

Performance Profile: Default

TLS Crypto Acceleration: Disabled

Force Deploy: →

- [管理 (Management)] > [ホスト (Host)] : デバイス設定で管理 IP アドレスを変更する場合、Management Center で新しいアドレスを一致させてネットワーク上のデバイスに到達できるようにし、[管理 (Management)] 領域で [ホスト (Host)] アドレスを編集します。

Management	
Host:	10.89.5.20
Status:	✓

Management Center : クラスタ、データインターフェイスの設定

この手順では、FXOS にクラスタを展開したときにクラスタに割り当てられた各データ インターフェイスの基本的なパラメータを設定します。複数のシャーシにわたるクラスタリングの場合、データインターフェイスは常にスパンド EtherChannel インターフェイスです。1 つの Firepower 9300 シャーシ内のセキュリティモジュール内に隔離されたクラスタのクラスタ制御リンクインターフェイスの場合、MTU をデフォルトから増やす必要があります。



- (注) 複数のシャーシによるクラスタリングにスパンド EtherChannel を使用している場合、クラスタリングが完全に有効になるまで、ポートチャネルインターフェイスは起動しません。この要件により、クラスタのアクティブではないユニットにトラフィックが転送されるのが防がれません。

手順

- ステップ 1** [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択し、クラスタの横にある [編集 (Edit)] () をクリックします。
- ステップ 2** [インターフェイス (Interfaces)] をクリックします。
- ステップ 3** クラスタ制御リンクを設定します。

複数シャーシによるクラスタリングの場合、クラスタ制御リンク MTU に、データインターフェイスの最大 MTU より少なくとも 100 バイト高い値を指定します。クラスタ制御リンクのトラフィックにはデータパケット転送が含まれるため、クラスタ制御リンクはデータパケット全体のサイズに加えてクラスタトラフィックのオーバーヘッドにも対応する必要があります。MTU の最大値を 9184 バイトに設定し、最小値を 1400 バイトに設定することをお勧めします。たとえば、最大 MTU は 9184 バイトであるため、データインターフェイスの最大 MTU は 9084 になり、クラスタ制御リンクは 9184 に設定できます。

ネイティブクラスタの場合：クラスタ制御リンクインターフェイスは、デフォルトで Port-Channel48 です。どのインターフェイスがクラスタ制御リンクであるかがわからない場合は、クラスタに割り当てられたクラスタ タイプ インターフェイスのシャーシの FXOS 設定を確認します。

- クラスタ制御リンクインターフェイスの [編集 (Edit)] () をクリックします。
- [全般 (General)] ページの [MTU] フィールドに、1400 ~ 9184 の値を入力します。最大の 9184 を使用することをお勧めします。

- c) [OK] をクリックします。

ステップ 4 データインターフェイスを設定します。

- a) (任意) データインターフェイスに VLAN サブインターフェイスを設定します。この手順の残りの部分は、サブインターフェイスに適用されます。[サブインターフェイスの追加](#)を参照してください。
- b) データインターフェイスの **[編集 (Edit)]** (✎) をクリックします。
- c) [ルーテッドモードのインターフェイスの設定](#)または[ブリッジグループインターフェイスの設定](#)に従い、名前、IP アドレス、およびその他のパラメータを設定します。

(注) クラスタ制御リンクインターフェイスの MTU がデータインターフェイスの MTU より 100 バイト以上大きくない場合、データインターフェイスの MTU を減らす必要があるというエラーが表示されます。[ステップ 3 \(39 ページ\)](#) を参照して、クラスタ制御リンクの MTU を増やしてください。その後、データインターフェイスの設定を続行できます。

- d) 複数シャーンによるクラスタリングの場合は、EtherChannel の手動グローバル MAC アドレスを設定します。**[詳細設定 (Advanced)]** をクリックし、**[アクティブな MAC アドレス (Active MAC Address)]** フィールドに、MAC アドレスを H.H.H 形式で設定します。H は 16 ビットの 16 進数です。

たとえば、MAC アドレスが 00-0C-F1-42-4C-DE の場合、000C.F142.4CDE と入力します。MAC アドレスはマルチキャストビットセットを持つことはできません。つまり、左から 2 番目の 16 進数字を奇数にすることはできません。

[スタンバイ MAC アドレス (Standby MAC Address)] は設定しないでください。無視されます。

潜在的なネットワークの接続問題を回避するために、スバンド EtherChannel にはグローバル MAC アドレスを設定する必要があります。MAC アドレスが手動設定されている場合、その MAC アドレスは現在の制御ユニットに留まります。MAC アドレスを設定していない場合に、制御ユニットが変更された場合、新しい制御ユニットはインターフェイスに新しい MAC アドレスを使用します。これにより、一時的なネットワークの停止が発生する可能性があります。

- e) [OK] をクリックします。他のデータ インターフェイスについても前述の手順を繰り返します。

ステップ 5 **[Save (保存)]** をクリックします。

これで、**[展開 (Deploy)]** > **[展開 (Deployment)]** をクリックし、割り当てたデバイスにポリシーを展開できるようになりました。変更はポリシーを展開するまで有効になりません。

Management Center : クラスターのヘルスマニターの設定

[クラスター (Cluster)] ページの **[クラスターヘルスマニターの設定 (Cluster Health Monitor Settings)]** セクションには、次の表で説明されている設定が表示されます。

図 10: クラスターのヘルスマニターの設定

Cluster Health Monitor Settings 			
Timeouts			
Hold Time			3 s
Interface Debounce Time			9000 ms
Monitored Interfaces			
Service Application			Enabled
Unmonitored Interfaces			None
Auto-Rejoin Settings			
	Attempts	Interval Between Attempts	Interval Variation
Cluster Interface	-1	5	1
Data Interface	3	5	2
System	3	5	2

表 1: [クラスターヘルスマニターの設定 (Cluster Health Monitor Settings)] セクションテーブルのフィールド

フィールド	説明
タイムアウト	
保留時間 (Hold Time)	ノードの状態を確認するため、クラスターノードはクラスター制御リンクで他のノードにハートビートメッセージを送信します。ノードが保留時間内にピアノードからハートビートメッセージを受信しない場合、そのピアノードは応答不能またはデッド状態と見なされます。
インターフェイスのデバウンス時間 (Interface Debounce Time)	インターフェイスのデバウンス時間は、インターフェイスで障害が発生していると思われ、クラスターからノードが削除されるまでの時間です。
Monitored Interfaces (モニタリング対象インターフェイス)	インターフェイスのヘルス チェックはリンク障害をモニターします。特定の論理インターフェイスのすべての物理ポートが、特定のノード上では障害が発生したが、別のノード上の同じ論理インターフェイスでアクティブポートがある場合、そのノードはクラスターから削除されます。ノードがメンバーをクラスターから削除するまでの時間は、インターフェイスのタイプと、そのノードが確立済みノードであるか、またはクラスターに参加しようとしているかによって異なります。
サービスアプリケーション (Service Application)	Snort プロセスおよび disk-full プロセスが監視されているかどうかを示します。

フィールド	説明
モニタリング対象外のインターフェイス (Unmonitored Interfaces)	モニタリング対象外のインターフェイスを表示します。
自動再結合の設定	
クラスタインターフェイス (Cluster Interface)	クラスタ制御リンクの自動再結合の設定の不具合を表示します。
データインターフェイス (Data Interfaces)	データインターフェイスの自動再結合の設定を表示します。
システム (System)	内部エラー時の自動再結合の設定を表示します。内部の障害には、アプリケーション同期のタイムアウト、矛盾したアプリケーションステータスなどがあります。



- (注) システムのヘルスチェックを無効にすると、システムのヘルスチェックが無効化されている場合に適用されないフィールドは表示されません。

このセクションからこれらの設定を行うことができます。

任意のポートチャネル ID、単一の物理インターフェイス ID、Snort プロセス、および disk-full プロセスを監視できます。ヘルスマニタリングは VLAN サブインターフェイス、または VNI や BVI などの仮想インターフェイスでは実行されません。クラスタ制御リンクのモニタリングは設定できません。このリンクは常にモニターされています。

手順

- ステップ 1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] を選択します。
- ステップ 2 変更するクラスターの横にある [編集 (Edit)] (✎) をクリックします。
- ステップ 3 [クラスター (Cluster)] をクリックします。
- ステップ 4 [クラスターのヘルスマニターの設定 (Cluster Health Monitor Settings)] セクションで、[編集 (Edit)] (✎) をクリックします。
- ステップ 5 [ヘルスチェック (Health Check)] スライダをクリックして、システムのヘルスチェックを無効にします。

図 11: システムヘルスチェックの無効化

Edit Cluster Health Monitor Settings

Health Check ⓘ

▼ Timeouts

Hold Time Range: 0.3 to 45 seconds

Interface Debounce Time Range: 300 to 9000 milliseconds

▶ Auto-Rejoin Settings

▶ Monitored Interfaces

Reset to Defaults Cancel Save

何らかのトポロジ変更（たとえばデータインターフェイスの追加/削除、ノードやスイッチのインターフェイスの有効化/無効化、VSSやvPCを形成するスイッチの追加）を行うときには、システムのヘルスチェック機能を無効にし、無効化したインターフェイスのモニタリングも無効にしてください。トポロジの変更が完了して、設定の変更がすべてのノードに同期されたら、システムのヘルスチェック機能を再度有効にてインターフェイスをモニタリングできます。

ステップ 6 ホールド時間とインターフェイスのデバウンス時間を設定します。

- [ホールド時間 (Hold Time)] : ノードのハートビート ステータス メッセージの時間間隔を指定します。指定できる範囲は3～45秒で、デフォルトは3秒です。
- [インターフェイスのデバウンス時間 (Interface Debounce Time)] : デバウンス時間は300～9000 msの範囲で値を設定します。デフォルトは500 msです。値を小さくすると、インターフェイスの障害をより迅速に検出できます。デバウンス時間を短くすると、誤検出の可能性が高くなることに注意してください。インターフェイスのステータス更新が発生すると、インターフェイス障害としてマーク付けされるまで、ノードは指定されたミリ秒数待機します。その後、ノードはクラスタから削除されます。EtherChannelがダウン状態からアップ状態に移行する場合（スイッチがリロードされた、スイッチでEtherChannelが有効になったなど）、デバウンス時間がより長くなり、ポートのバンドルにおいて別のクラスタノードの方が高速なため、クラスタノードでインターフェイスの障害が表示されることを妨げることがあります。

ステップ 7 ヘルス チェック失敗後の自動再結合クラスタ設定をカスタマイズします。

図 12: 自動再結合の設定

▼ Auto-Rejoin Settings

Cluster Interface

Attempts Range: 0-65535 (-1 for unlimited number of attempts)

Interval Between Attempts Range: 2-60 minutes between rejoin attempts

Interval Variation Range: 1-3. Defines if the interval duration increases. 1 (no change); 2 (2 x the previous duration), or 3 (3 x the previous duration).

Data Interface

Attempts Range: 0-65535 (-1 for unlimited number of attempts)

Interval Between Attempts Range: 2-60 minutes between rejoin attempts

Interval Variation Range: 1-3. Defines if the interval duration increases. 1 (no change); 2 (2 x the previous duration), or 3 (3 x the previous duration).

System

Attempts Range: 0-65535 (-1 for unlimited number of attempts)

Interval Between Attempts Range: 2-60 minutes between rejoin attempts

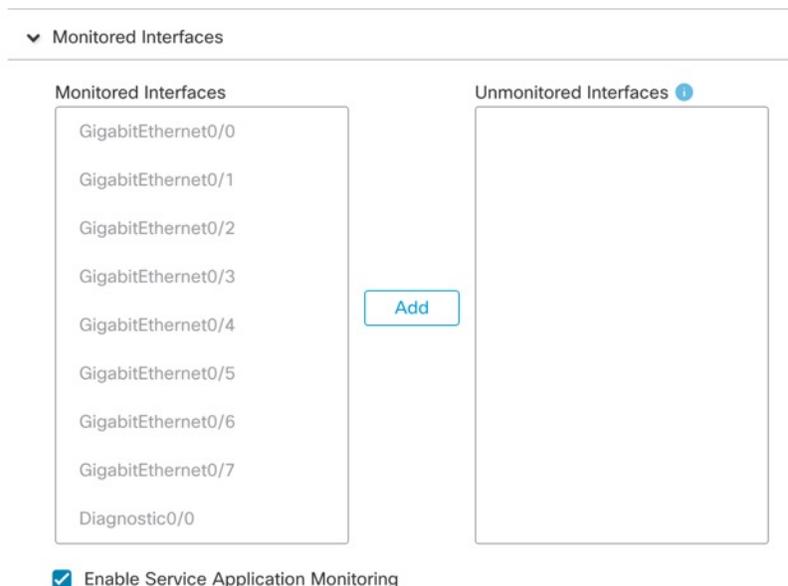
Interval Variation Range: 1-3. Defines if the interval duration increases. 1 (no change); 2 (2 x the previous duration), or 3 (3 x the previous duration).

[クラスタインターフェイス (Cluster Interface)]、[データインターフェイス (Data Interface)]、および[システム (System)]に次の値を設定します (内部エラーには、アプリケーションの同期タイムアウト、一貫性のないアプリケーションステータスなどがあります)。

- [試行数 (Attempts)]: 再結合の試行回数を 0 ~ 65535 の範囲の値に設定します。0 は自動再結合を無効化します。[クラスタインターフェイス (Cluster Interface)]のデフォルト値は -1 (無制限) です。[データインターフェイス (Data Interface)]と[システム (System)]のデフォルト値は 3 です。
- [試行の間隔 (Interval Between Attempts)]: 再結合試行の間隔を 2 ~ 60 の分単位で定義します。デフォルト値は 5 分です。クラスターへの再参加をノードが試行する最大合計時間は、最後の障害発生時から 14400 分 (10 日) に制限されます。
- [間隔のバリエーション (Interval Variation)]: 間隔を増加させるかどうかを定義します。1 ~ 3 の範囲で値を設定します (1: 変更なし、2: 直前の間隔の 2 倍、3: 直前の間隔の 3 倍)。たとえば、間隔を 5 分に設定し、変分を 2 に設定した場合は、最初の試行が 5 分後、2 回目の試行が 10 分後 (2 x 5)、3 階目の試行が 20 分後 (2 x 10) となります。デフォルト値は、[クラスタインターフェイス (Cluster Interface)]の場合は 1、[データインターフェイス (Data Interface)]および[システム (System)]の場合は 2 です。

ステップ 8 [モニタリング対象のインターフェイス (Monitored Interfaces)]または[モニタリング対象外のインターフェイス (Unmonitored Interfaces)]ウィンドウでインターフェイスを移動して、モニタリング対象のインターフェイスを設定します。[サービスアプリケーションのモニタリングを有効にする (Enable Service Application Monitoring)]をオンまたはオフにして、Snort プロセスと disk-full プロセスのモニタリングを有効または無効にすることもできます。

図 13: モニタリング対象インターフェイスの設定



インターフェイスのヘルスチェックはリンク障害をモニターします。特定の論理インターフェイスのすべての物理ポートが、特定のノード上では障害が発生したが、別のノード上の同じ論理インターフェイスでアクティブポートがある場合、そのノードはクラスタから削除されます。ノードがメンバーをクラスタから削除するまでの時間は、インターフェイスのタイプと、そのノードが確立済みノードであるか、またはクラスタに参加しようとしているかによって異なります。デフォルトでは、ヘルスチェックはすべてのインターフェイス、および Snort プロセスと disk-full プロセスで有効になっています。

必須以外のインターフェイスのヘルス モニタリングを無効にできます。

何らかのトポロジ変更（たとえばデータインターフェイスの追加/削除、ノードやスイッチのインターフェイスの有効化/無効化、VSSやvPCを形成するスイッチの追加）を行うときには、システムのヘルスチェック機能を無効にし、無効化したインターフェイスのモニタリングも無効にしてください。トポロジの変更が完了して、設定の変更がすべてのノードに同期されたら、システムのヘルスチェック機能を再度有効にてインターフェイスをモニタリングできます。

ステップ 9 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 10 設定変更を展開します [設定変更の展開](#) を参照してください。

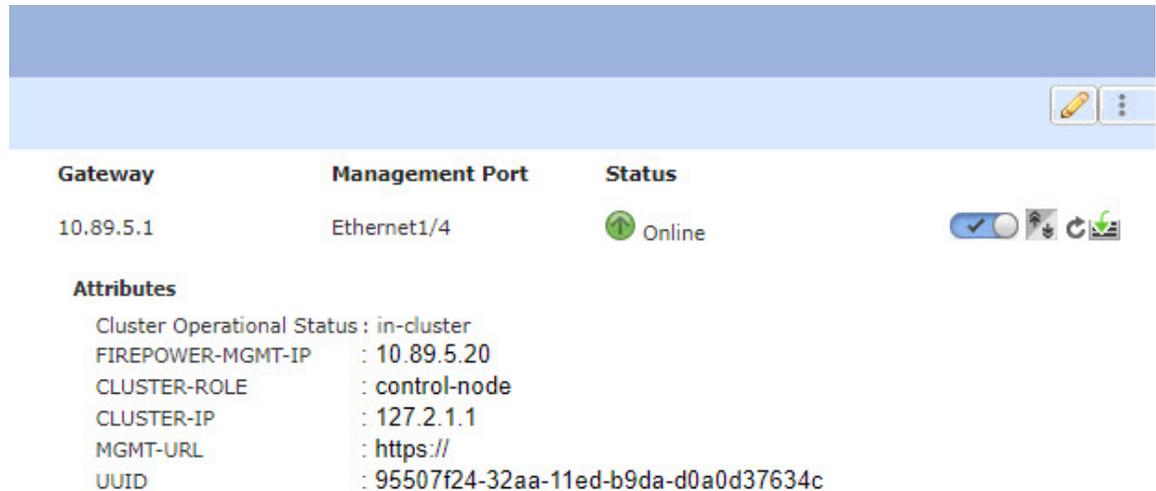
FXOS : クラスタノードの削除

ここでは、ノードをクラスタから一時的に、または永続的に削除する方法について説明します。

一時的な削除

たとえば、ハードウェアまたはネットワークの障害が原因で、クラスタノードはクラスタから自動的に削除されます。この削除は、条件が修正されるまでの一時的なものであるため、クラスタに再参加できます。また、手動でクラスタリングを無効にすることもできます。

デバイスが現在クラスタ内に存在するか確認するには、Chassis Manager [論理デバイス (Logical Devices)] ページで、**show cluster info** コマンドを使用してアプリケーション内のクラスタステータスを確認します。



Gateway	Management Port	Status
10.89.5.1	Ethernet1/4	Online

Attributes

```

Cluster Operational Status : in-cluster
FIREPOWER-MGMT-IP       : 10.89.5.20
CLUSTER-ROLE            : control-node
CLUSTER-IP               : 127.2.1.1
MGMT-URL                 : https://
UUID                     : 95507f24-32aa-11ed-b9da-d0a0d37634c
  
```

Management Center を使用した Threat Defense では、Management Center デバイスリストにデバイスを残し、クラスタリングを再度有効にした後ですべての機能を再開できるようにする必要があります。

- アプリケーションでのクラスタリングの無効化 : アプリケーション CLI を使用してクラスタリングを無効にすることができます。 **cluster remove unit name** コマンドを入力して、ログインしているノード以外のすべてのユニットを削除します。ブートストラップコンフィギュレーションは変更されず、制御ノードから最後に同期されたコンフィギュレーションもそのままであるので、コンフィギュレーションを失わずに後でそのノードを再度追加できます。制御ノードを削除するためにデータノードでこのコマンドを入力した場合は、新しい制御ノードが選定されます。

デバイスが非アクティブになると、すべてのデータインターフェイスがシャットダウンされます。管理専用インターフェイスのみがトラフィックを送受信できます。トラフィックフローを再開するには、クラスタリングを再度有効にします。管理インターフェイスは、そのノードがブートストラップ設定から受け取った IP アドレスを使用して引き続き稼働状態となります。ただし、リロードしてもノードがクラスタ内でまだアクティブではない場合、管理インターフェイスは無効になります。

クラスタリングを再度有効にするには、Threat Defense で **cluster enable** を入力します。

- アプリケーション インスタンスの無効化 : Chassis Manager の [論理デバイス (Logical Devices)] ページで **有効なスライダ** () をクリックします。 **無効なスライダ** () を使用して後で再度有効にすることができます。

- セキュリティ モジュール/エンジンのシャットダウン : Chassis Manager の [セキュリティ モジュール/エンジン (Security Module/Engine)] ページで、[電源オフ (Power Off)] アイコンをクリックします。
- シャーシのシャットダウン : Chassis Manager の [概要 (Overview)] ページで、[シャットダウン (Shut Down)] アイコンをクリックします。

完全な削除

次の方法を使用して、クラスタノードを完全に削除できます。

Management Center を使用した Threat Defense の場合、シャーシでクラスタリングを無効にした後でノードを Management Center デバイスリストから削除してください。

- 論理デバイスの削除 : Chassis Manager の [論理デバイス (Logical Devices)] ページで、をクリックします。その後、スタンドアロンの論理デバイスや新しいクラスタを展開したり、同じクラスタに新しい論理デバイスを追加したりすることもできます。
- サービスからのシャーシまたはセキュリティモジュールの削除 : サービスからデバイスを削除する場合は、交換用ハードウェアをクラスタの新しいノードとして追加できます。

Management Center : クラスタメンバーの管理

クラスタを導入した後は、コンフィギュレーションを変更し、クラスタ メンバを管理できます。

新規クラスタ メンバーの追加

FXOS に新しいクラスタ メンバーを追加すると、Secure Firewall Management Center によりメンバーが自動的に追加されます。

始める前に

- インターフェイスの設定が他のシャーシと交換用ユニットで同じ設定になっていることを確認します。

手順

ステップ 1 FXOS のクラスタに新しいユニットを追加します。『[FXOS コンフィギュレーションガイド](#)』を参照してください。

新しいユニットがクラスタに追加されるまで待機します。Chassis Manager の [論理デバイス (Logical Devices)] 画面を参照するか、または Threat Defense の **show cluster info** コマンドを使用してクラスタステータスを表示します。

ステップ 2 新しいクラスタメンバーは自動的に追加されます。交換用ユニットの登録状況をモニターするには、次のように表示します。

- [クラスタステータス (Cluster Status)] ダイアログボックス ([デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] その他 (ⓘ) アイコンまたは [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスタ (Cluster)] タブ > [全般 (General)] 領域 > [クラスタステータスの表示 (View Cluster Status)] > [クラスタのライブステータス (Cluster Live Status)] リンクから使用可能) で、シャーシ上でクラスタに追加中のユニットに「クラスタに追加中... (Joining cluster...)」と示されます。クラスタに追加された後に、Management Center はこれの登録を試み、ステータスが「登録可能 (Available for Registration)」に変わります。登録が完了すると、ステータスが「同期状態 (In Sync)」に変わります。登録に失敗すると、ユニットは「登録可能 (Available for Registration)」の状態に留まります。この場合、[照合 (Reconcile)] をクリックして再登録を強制します。
- [システムステータス (System status)] > [タスク (Tasks)] : Management Center にすべての登録イベントとエラーが表示されます。
- [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] : デバイスの一覧表示ページでクラスタを展開して、左側にロードアイコンがある場合は、ユニットが登録中であることを示しています。

クラスタメンバーの置換

既存クラスタ内のクラスタメンバーを置き換えることができます。Management Center は交換ユニットを自動検出します。ただし、Management Center 内の古いクラスタメンバーは手動で削除する必要があります。また、この手順は再初期化したユニットにも適用されます。その場合は、ハードウェアが同じでも新しいメンバーとして表示されます。

始める前に

- インターフェイス設定が他のシャーシに関する交換ユニットと同じであることを確認します。

手順

ステップ 1 新しいシャーシの場合、可能であれば、FXOS内の古いシャーシの設定をバックアップして復元します。

Firepower 9300 のモジュールを交換する場合は、次の手順を実行する必要はありません。

古いシャーシのバックアップ FXOS 設定がない場合は、最初に[新規クラスタメンバーの追加 \(47 ページ\)](#) の手順を実行します。

以下のすべての手順については、[FXOS コンフィギュレーションガイド \[英語\]](#)を参照してください。

- 設定のエクスポート機能を使用して、Firepower 4100/9300 シャーシの論理デバイスとプラットフォームの構成時の設定を含んでいる XML ファイルをエクスポートします。
- 交換用シャーシに設定ファイルをインポートします。
- ライセンス契約に同意します。
- 必要に応じて、論理デバイスのアプリケーションインスタンスバージョンをアップグレードして、残りのクラスタと一致させます。

ステップ 2 古いユニットの Management Center で、**[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > その他 (☰) > [削除 (Delete)]** を選択し。



ステップ 3 ユニットの削除を確認します。

ユニットがクラスタから削除され、Management Center デバイス リストからも削除されます。

ステップ 4 新しいクラスタメンバーまたは再初期化したクラスタメンバーは自動的に追加されます。交換用ユニットの登録状況をモニターするには、次のように表示します。

- **[クラスタステータス (Cluster Status)]** ダイアログボックス (**[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)]** その他 (☰) アイコンまたは **[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスタ (Cluster)]** ページ > **[全般 (General)]** 領域 > **[クラスタステータスの表示 (View Cluster Status)]** > **[クラスタのライブステータス (Cluster Live Status)]** リンク) で、シャーシ上でクラスタに追加中のユニットに「クラスタに追加中... (Joining cluster...)」と示されます。クラスタに追加された後に、Management Center はこれの登録を試み、ステータスが「登録可能 (Available for Registration)」に変わります。登録が完了すると、ステータスが「同期状態 (In Sync)」に変わります。登録に失敗すると、ユニットは「登録可能 (Available for Registration)」の状態に留まります。この場合、**[照合 (Reconcile)]** **[すべて (All)]** をクリックして再登録を強制します。
- **システム (⚙️) > [タスク (Tasks)]** : Management Center にすべての登録イベントとエラーが表示されます。
- **[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)]** : デバイスの一覧表示ページでクラスタを展開して、左側にロードアイコンがある場合は、ユニットが登録中であることを示しています。

メンバーの非アクティブ化

ユニットの削除に備えて、またはメンテナンスのために一時的にメンバーを非アクティブ化する場合があります。この手順は、メンバーを一時的に非アクティブ化するためのものです。ユニットは引き続き Management Center デバイスリストに表示されます。



(注) ユニットが非アクティブになると、すべてのデータインターフェイスがシャットダウンされます。管理インターフェイスのみがトラフィックを送受信できます。トラフィックフローを再開するには、クラスタリングを再度有効にします。管理インターフェイスは、そのユニットがブートストラップ設定から受け取った IP アドレスを使用して引き続き稼働状態となります。ただし、リロードする場合、クラスタでユニットがまだ非アクティブになっていると、管理インターフェイスは無効になります。それ以降のコンフィギュレーション作業には、コンソールを使用する必要があります。

手順

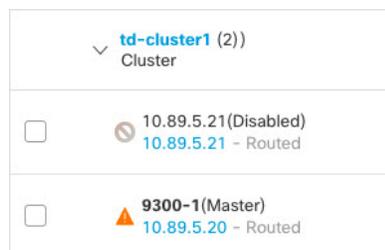
ステップ 1 非アクティブ化するユニットに対し、[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] その他 (☰) > [クラスタリングを無効にする (Disable Clustering)] を選択します。



[クラスタステータス (Cluster Status)] ダイアログボックスから、ユニットを非アクティブ化することもできます ([デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] その他 (☰) > [クラスタのライブステータス (Cluster Live Status)])。

ステップ 2 ユニットのクラスタリングを無効にすることを確認します。

ユニットは、[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] リストの名前の横に [(無効 (Disabled))] と表示されます。



ステップ3 クラスタリングを再び有効にするには、[クラスタへの再参加 \(51 ページ\)](#) を参照してください。

クラスタへの再参加

障害が発生したインターフェイスなど、ユニットがクラスタから削除された場合または手動でクラスタリングを無効にした場合、クラスタに手動で再参加させる必要があります。クラスタへの再参加を試行する前に、障害が解決されていることを確認します。クラスタからユニットが削除される理由の詳細については、[クラスタへの再参加 \(73 ページ\)](#) を参照してください。

手順

ステップ1 再アクティブ化するユニットに対し、**[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] その他 (⚙️) > [クラスタリングを有効にする (Enable Clustering)]** を選択します。



[クラスタステータス (Cluster Status)] ダイアログボックスから、ユニットを再アクティブ化することもできます (**[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > その他 (⚙️) > [クラスタのライブステータス (Cluster Live Status)]**)。

ステップ2 ユニットでクラスタリングを有効にすることを確認します。

データノードの削除 (登録解除)

クラスタノードを完全に削除する必要がある場合 (たとえば、Firepower 9300 でモジュールを削除する場合、またはシャーシを削除する場合) は、Management Center からメンバーを登録解除する必要があります。

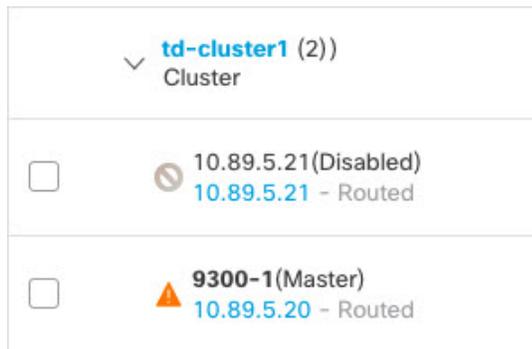
ノードが正常なクラスタの一部である場合、またはノードを一時的に無効にするだけの場合は、ノードを登録解除しないでください。FXOSのクラスタから完全に削除するには、[FXOS : クラスタノードの削除 \(45 ページ\)](#) を参照してください。Management Center から登録解除しても、まだクラスタの一部である場合、トラフィックを引き続き通過させ、制御ノード (Management Center が管理できない制御ノード) になる可能性もあります。

始める前に

ユニットを手動で非アクティブ化するには、[メンバーの非アクティブ化（50 ページ）](#) を参照してください。ノードを登録解除する前に、手動で、またはヘルス障害により、ノードが非アクティブになっている必要があります。

手順

- ステップ 1** ノードが Management Center から登録解除できる状態であることを確認します。[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] で、ユニットに [(無効 (Disabled))] と表示されていることを確認します。



また、各ノードのステータスは、**その他** (⚙️) から [クラスタステータス (Cluster Status)] ダイアログボックスで確認できます。ステータスが古い場合は、[クラスタステータス (Cluster Status)] ダイアログボックスの [照合 (Reconcile)] をクリックして強制的に更新します。

- ステップ 2** 削除するデータユニットの Management Center で、[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > **その他** (⚙️) > [削除 (Delete)] を選択します。



- ステップ 3** ノードを削除することを確認します。

ノードがクラスタから削除され、Management Center デバイス リストからも削除されます。

制御ユニットの変更



注意 制御ユニットを変更する最良の方法は、制御ユニットでクラスタリングを無効にし、新しい制御ユニットの選択を待ってから、クラスタリングを再度有効にする方法です。制御ユニットにするユニットを厳密に指定する必要がある場合は、この項の手順を使用します。中央集中型機能については、制御ユニット変更を強制するとすべての接続がドロップされるので、新しい制御ユニット上で接続を再確立する必要があります。

制御ユニットを変更するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > その他 (☰) > [クラスタのライブステータス (Cluster Live Status)] を選択して [クラスタステータス (Cluster Status)] ダイアログボックスを開きます。

[クラスタステータス (Cluster Status)] ダイアログボックスは、[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスタ (Cluster)] ページ > [全般 (General)] 領域 > [クラスタのライブステータス (Cluster Live Status)] リンクからも開くことができます。

ステップ 2 制御ユニットにしたいユニットについて、その他 (☰) > [ロールを制御に変更 (Change Role to Control)] を選択します。

ステップ 3 ロールの変更を確認するように求められます。チェックボックスをオンにして [OK] をクリックします。

クラスタメンバーの照合

クラスタメンバーの登録に失敗した場合、シャーンから Secure Firewall Management Center に対してクラスタメンバーシップを照合することができます。たとえば、Management Center が特定のプロセスで占領されているか、またはネットワークに問題がある場合、データユニットの登録に失敗することがあります。

手順

ステップ 1 クラスタの [Devices] > [Device Management] > その他 (☰) を選択し、次に [Cluster Live Status] を選択して [Cluster Status] ダイアログボックスを開きます。

[Cluster Status] ダイアログボックスは、[Devices] > [Device Management] > [Cluster] ページ > [General] 領域 > [Cluster Live Status] リンクからも開くことができます。

ステップ 2 [Reconcile All] をクリックします。

クラスター ステータスの詳細については、[Management Center : クラスターのモニタリング \(54 ページ\)](#) を参照してください。

Management Center : クラスターのモニタリング

クラスターのモニタリングは、Secure Firewall Management Center および Threat Defense CLI で実行できます。

- [Cluster Status] ダイアログボックスには、[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > その他 (⋮) アイコンから、または [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスター (Cluster)] ページ > [全般 (General)] 領域 > [クラスターステータスの表示 (View cluster status)] > [クラスターのライブステータス (Cluster Live Status)] リンクからアクセスできます。

Cluster Status ?

Overall Status:  Clustering is disabled for 1 node(s)

Nodes details (2) Refresh Reconcile All

Status	Device Name	Unit Name	Chassis URL
In Sync	node1 Control	node1	N/A
Clustering is disabled	node2	node2	N/A

Summary History

ID: 0 CCL IP: 10.10.10.1
 Site ID: N/A CCL MAC: 000c.29bb.d7bb
 Serial No: 9A4MK10VUVF Module: NGFW
 Last join: 19:17:26 UTC Jul 18 2022 Resource: 16 cores / 32256 MB RAM
 Last leave: N/A

Timestamp	From State	To State	Event
21:15:13 UTC Jul 18 2022	SLAVE_APP_SYNC	DISABLED	Slave application configuration sync timeout
20:55:10 UTC Jul 18 2022	DISABLED	ELECTION	Enabled from kickout timer
20:55:10 UTC Jul 18 2022	ELECTION	ONCALL	Event: Cluster unit node1 state is MASTER
20:55:10 UTC Jul 18 2022	ONCALL	SLAVE_COLD	Received cluster control message

Dated: 08:56:56 | 09 Sep 2022 Close

コントロールユニットには、そのロールを示すグラフィックインジケータがあります。クラスターメンバーステータスには、次の状態が含まれます。

- 同期中 (In Sync) : 装置は Management Center に登録されています。
- Pending Registration : 装置はクラスターの一部ですが、まだ Management Center に登録されていません。装置が登録に失敗した場合、[Reconcile All] をクリックして登録を再試行することができます。
- Clustering is disabled : 装置は Management Center に登録されていますが、クラスターの非アクティブなメンバーです。クラスタリング設定は、後で再有効化する予定がある場合は変更せずに維持できます。または、装置をクラスターから削除することも可能です。
- クラスターに参加中 (Joining cluster) : 装置がシャーシ上でクラスターに参加していますが、参加は完了していません。参加後に Management Center に登録されます。

装置ごとに、[Summary] または [History] で、それぞれ概要と履歴を表示できます。

その他 (⚙) メニューから、装置ごとに次のステータス変更を実行できます。

- クラスタリングを無効にする
 - クラスタリングを有効にする
 - ロールを Control に変更する
- システム (⚙) > [Tasks] ページ。
- [Tasks] ページには、各装置が登録されるごとに、クラスタ登録タスクの最新の状況が表示されます。
- [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > *cluster_name*。
- デバイスの一覧表示ページでクラスターを展開すると、制御装置 (IP アドレスの横にその役割が示されている) を含め、すべてのメンバ装置を表示できます。登録中の装置には、ロード中のアイコンが表示されます。
- **show cluster {access-list [*acl_name*] | conn [count] | cpu [usage] | history | interface-mode | memory | resource usage | service-policy | traffic | xlate count}**
- クラスター全体の集約データまたはその他の情報を表示するには、**show cluster** コマンドを使用します。
- **show cluster info [auto-join | clients | conn-distribution | flow-mobility counters | goid [*options*] | health | incompatible-config | loadbalance | old-members | packet-distribution | trace [*options*] | transport { asp | cp}]**
- クラスター情報を表示するには、**show cluster info** コマンドを使用します。

クラスタヘルスマニターダッシュボード

Cluster Health Monitor

Threat Defense がクラスタの制御ノードである場合、Management Center はデバイスメトリックデータコレクタからさまざまなメトリックを定期的に収集します。クラスタのヘルスマニターは、次のコンポーネントで構成されています。

- 概要ダッシュボード：クラスタトポロジ、クラスタ統計、およびメトリックチャートに関する情報を表示します。
 - トポロジセクションには、クラスタのライブステータス、個々の脅威防御の状態、脅威防御ノードのタイプ（制御ノードまたはデータノード）、およびデバイスの状態が表示されます。デバイスの状態は、[無効 (Disabled)]（デバイスがクラスタを離れたとき）、[初期状態で追加 (Added out of box)]（パブリッククラウドクラスタで Management Center に属していない追加ノード）、または [標準 (Normal)]（ノードの理想的な状態）のいずれかです。
 - クラスタの統計セクションには、CPU 使用率、メモリ使用率、入力レート、出力レート、アクティブな接続数、および NAT 変換数に関するクラスタの現在のメトリックが表示されます。



(注) CPU とメモリのメトリックは、データプレーンと Snort の使用量の個々の平均を示します。

- メトリックチャート、つまり、CPU 使用率、メモリ使用率、スループット、および接続数は、指定された期間におけるクラスタの統計を図表で示します。
- 負荷分散ダッシュボード：2 つのウィジェットでクラスタノード全体の負荷分散を表示します。
 - 分布ウィジェットには、クラスタノード全体の時間範囲における平均パケットおよび接続分布が表示されます。このデータは、ノードによって負荷がどのように分散されているかを示します。このウィジェットを使用すると、負荷分散の異常を簡単に特定して修正できます。
 - ノード統計ウィジェットには、ノードレベルのメトリックが表形式で表示されます。クラスタノード全体の CPU 使用率、メモリ使用率、入力レート、出力レート、アクティブな接続数、および NAT 変換数に関するメトリックデータが表示されます。このテーブルビューでは、データを関連付けて、不一致を簡単に特定できます。
- メンバーパフォーマンスダッシュボード：クラスタノードの現在のメトリックを表示します。セレクタを使用してノードをフィルタリングし、特定ノードの詳細を表示できます。メトリックデータには、CPU 使用率、メモリ使用率、入力レート、出力レート、アクティブな接続数、および NAT 変換数が含まれます。

- CCLダッシュボード：クラスタの制御リンクデータ、つまり入力レートと出力レートをグラフ形式で表示します。
- トラブルシューティングとリンク：頻繁に使用されるトラブルシューティングのトピックと手順への便利なリンクを提供します。
- 時間範囲：さまざまなクラスタ メトリック ダッシュボードやウィジェットに表示される情報を制限するための調整可能な時間枠。
- カスタムダッシュボード：クラスタ全体のメトリックとノードレベルのメトリックの両方に関するデータを表示します。ただし、ノードの選択は脅威防御メトリックにのみ適用され、ノードが属するクラスタ全体には適用されません。

クラスタ ヘルスの表示

この手順を実行するには、管理者ユーザー、メンテナンスユーザー、またはセキュリティアナリスト ユーザーである必要があります。

クラスタヘルスマニターは、クラスタとそのノードのヘルスステータスの詳細なビューを提供します。このクラスタヘルスマニターは、一連のダッシュボードでクラスタのヘルスステータスと傾向を提供します。

始める前に

- Management Center の 1 つ以上のデバイスからクラスタを作成しているかを確認します。

手順

ステップ 1 システム (⚙️) > [正常性 (Health)] > [モニタ (Monitor)] を選択します。

[モニタリング (Monitoring)] ナビゲーションウィンドウを使用して、ノード固有のヘルスマニターにアクセスします。

ステップ 2 デバイスリストで [展開 (Expand)] (>) と [折りたたみ (Collapse)] (▼) をクリックして、管理対象のクラスタデバイスのリストを展開または折りたたみます。

ステップ 3 クラスタのヘルス統計を表示するには、クラスタ名をクリックします。デフォルトでは、クラスタモニターは、いくつかの事前定義されたダッシュボードで正常性およびパフォーマンスのメトリックを報告します。メトリックダッシュボードには次のものが含まれます。

- [概要 (Overview)] : 他の事前定義されたダッシュボードからの主要なメトリックを表示します。ノード、CPU、メモリ、入力レート、出力レート、接続統計情報、NAT 変換情報などが含まれます。
- [負荷分散 (Load Distribution)] : クラスタノード間のトラフィックとパケットの分散。
- [メンバーパフォーマンス (Member Performance)] : CPU 使用率、メモリ使用率、入力スループット、出力スループット、アクティブな接続、および NAT 変換に関するノードレベルの統計情報。

- [CCL] : インターフェイスのステータスおよび集約トラフィックの統計情報。

ラベルをクリックすると、さまざまなメトリックダッシュボードに移動できます。サポートされているクラスタメトリックの包括的なリストについては、「[Cisco Secure Firewall Threat Defense Health Metrics](#)」を参照してください。

ステップ 4 右上隅のドロップダウンで、時間範囲を設定できます。最短で1時間前（デフォルト）から、最長では2週間前からの期間を反映できます。ドロップダウンから [Custom] を選択して、カスタムの開始日と終了日を設定します。

更新アイコンをクリックして、自動更新を5分に設定するか、自動更新をオフに切り替えます。

ステップ 5 選択した時間範囲について、トレンドグラフの展開オーバーレイの展開アイコンをクリックします。

展開アイコンは、選択した時間範囲内の展開数を示します。垂直の帯は、展開の開始時刻と終了時刻を示します。複数の展開の場合、複数の帯または線が表示されます。展開の詳細を表示するには、点線の上部にあるアイコンをクリックします。

ステップ 6 （ノード固有のヘルスマニターの場合） ページ上部のデバイス名の右側にあるアラート通知で、ノードの正常性アラートを確認します。

正常性アラートにポインタを合わせると、ノードの正常性の概要が表示されます。ポップアップウィンドウに、上位5つの正常性アラートの概要の一部が表示されます。ポップアップをクリックすると、正常性アラート概要の詳細ビューが開きます。

ステップ 7 （ノード固有のヘルスマニターの場合） デフォルトでは、デバイスモニターは、いくつかの事前定義されたダッシュボードで正常性およびパフォーマンスのメトリックを報告します。メトリックダッシュボードには次のものが含まれます。

- **Overview** : CPU、メモリ、インターフェイス、接続統計情報など、他の定義済みダッシュボードからの主要なメトリックを表示します。ディスク使用量と重要なプロセス情報も含まれます。
- **CPU** : CPU 使用率。プロセス別および物理コア別の CPU 使用率を含みます。
- **Memory** : デバイスのメモリ使用率。データプレーンと Snort のメモリ使用率を含みます。
- **Interfaces** : インターフェイスのステータスおよび集約トラフィック統計情報。
- **Connections** : 接続統計（エレファントフロー、アクティブな接続数、ピーク接続数など）および NAT 変換カウント。
- **[Snort]** : Snort プロセスに関連する統計情報。
- **[ASPドロップ (ASP drops)]** : さまざまな理由でドロップされたパケットに関連する統計情報。

ラベルをクリックすると、さまざまなメトリックダッシュボードに移動できます。サポートされているデバイスメトリックの包括的なリストについては、「[Cisco Secure Firewall Threat Defense Health Metrics](#)」を参照してください。

ステップ 8 ヘルスモニターの右上隅にあるプラス記号 ([+]) をクリックして、使用可能なメトリックグループから独自の変数セットを構成し、カスタムダッシュボードを作成します。

クラスタ全体のダッシュボードの場合は、クラスタのメトリックグループを選択してから、メトリックを選択します。

クラスタメトリック

クラスタのヘルスモニターは、クラスタとそのノードに関連する統計情報と、負荷分散、パフォーマンス、および CCL トラフィックの統計データの集約結果を追跡します。

表 2: クラスタメトリック

メトリック	説明	書式
CPU	クラスタノード上の CPU メトリックの平均（データプレーンと snort についてそれぞれ表示）。	percentage
メモリ	クラスタノード上のメモリメトリックの平均（データプレーンと snort についてそれぞれ表示）。	percentage
データスループット	クラスタの着信および発信データトラフィックの統計。	bytes
CCL スループット	クラスタの着信および発信 CCL トラフィックの統計。	bytes
接続 (Connections)	クラスタ内のアクティブな接続数。	number
NAT Translations	クラスタの NAT 変換数。	number
Distribution	1 秒ごとのクラスタ内の接続分布数。	number
パケット	クラスタ内の 1 秒ごとのパケット配信の件数。	number

Management Center : クラスタのトラブルシューティング

CCL Ping ツールを使用すると、クラスタ制御リンクが正しく動作していることを確認できます。デバイスとクラスタで使用可能な次のツールを使用することもできます。

- **トラブルシューティングファイル** : ノードがクラスタに参加できない場合、トラブルシューティングファイルが自動的に生成されます。また、**[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスタ (Cluster)] > [一般 (General)]** エリアからトラ

ブルシューティングファイルを生成してダウンロードすることもできます。[トラブルシューティング ファイルの生成](#)を参照してください。

その他 (🔗) をクリックし、[トラブルシューティングファイル (Troubleshoot Files)] を選択して、[デバイス管理 (Device Management)] ページからファイルを生成することもできます。

- CLI 出力 : [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスタ (Cluster)] > [一般 (General)] エリアで、クラスタのトラブルシューティングに役立つ一連の定義済み CLI 出力を表示できます。クラスタに対して次のコマンドが自動的に実行されます。

- **show running-config cluster**
- **show cluster info**
- **show cluster info health**
- **show cluster info transport cp**
- **show version**
- **show asp drop**
- **show counters**
- **show arp**
- **show int ip brief**
- **show blocks**
- **show cpu detailed**
- **show interface ccl_interface**
- **ping ccl_ip size ccl_mtu repeat 2**

[コマンド (Command)] フィールドに任意の **show** コマンドを入力することもできます。詳細については、[CLI 出力の表示](#)を参照してください。

クラスタ制御リンクへの ping の実行

ping を実行して、すべてのクラスタノードがクラスタ制御リンクを介して相互に到達できることを確認できます。ノードがクラスタに参加できない主な原因の1つは、クラスタ制御リンクの設定が正しくないことです。たとえば、クラスタ制御リンクのMTUが、接続しているスイッチのMTUよりも大きい値に設定されている可能性があります。

手順

ステップ 1 [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] の順に選択し、クラスタの横の **その他** (⋮) をクリックして [クラスタのライブステータス (Cluster Live Status)] を選択します。

図 14: クラスタのステータス

Cluster Status

Overall Status: Cluster has all nodes in sync

Nodes details (2) Refresh Reconcile All

	Status	Device Name	Unit Name	Chassis URL	
>	In Sync.	172.16.0.50 Control	172.16.0.50	N/A	⋮
>	In Sync.	172.16.0.51	172.16.0.51	N/A	⋮

Dated: 11:52:26 | 20 Dec 2021 Close

ステップ 2 ノードの 1 つを展開し、[CCL Ping] をクリックします。

図 15: CCL Ping

Cluster Status ?

Overall Status: ■ Clustering is disabled for 1 node(s)

Nodes details (3) Refresh Reconcile All

Status	Device Name	Unit Name	Chassis URL
In Sync.	10.10.43.21 Control	10.10.43.21	N/A
<div style="display: flex; justify-content: space-between; border-bottom: 1px solid #ccc; padding-bottom: 5px;"> Summary History CCL Ping </div> <pre> ping 10.10.3.2 size 1654 Sending 5, 1654-byte ICMP Echos to 10.10.3.2, timeout is 2 seconds: ????? Success rate is 0 percent (0/5) ----- ping 10.10.3.1 size 1654 </pre>			
>	Clustering is disabled	10.10.43.22	10.10.43.22 N/A

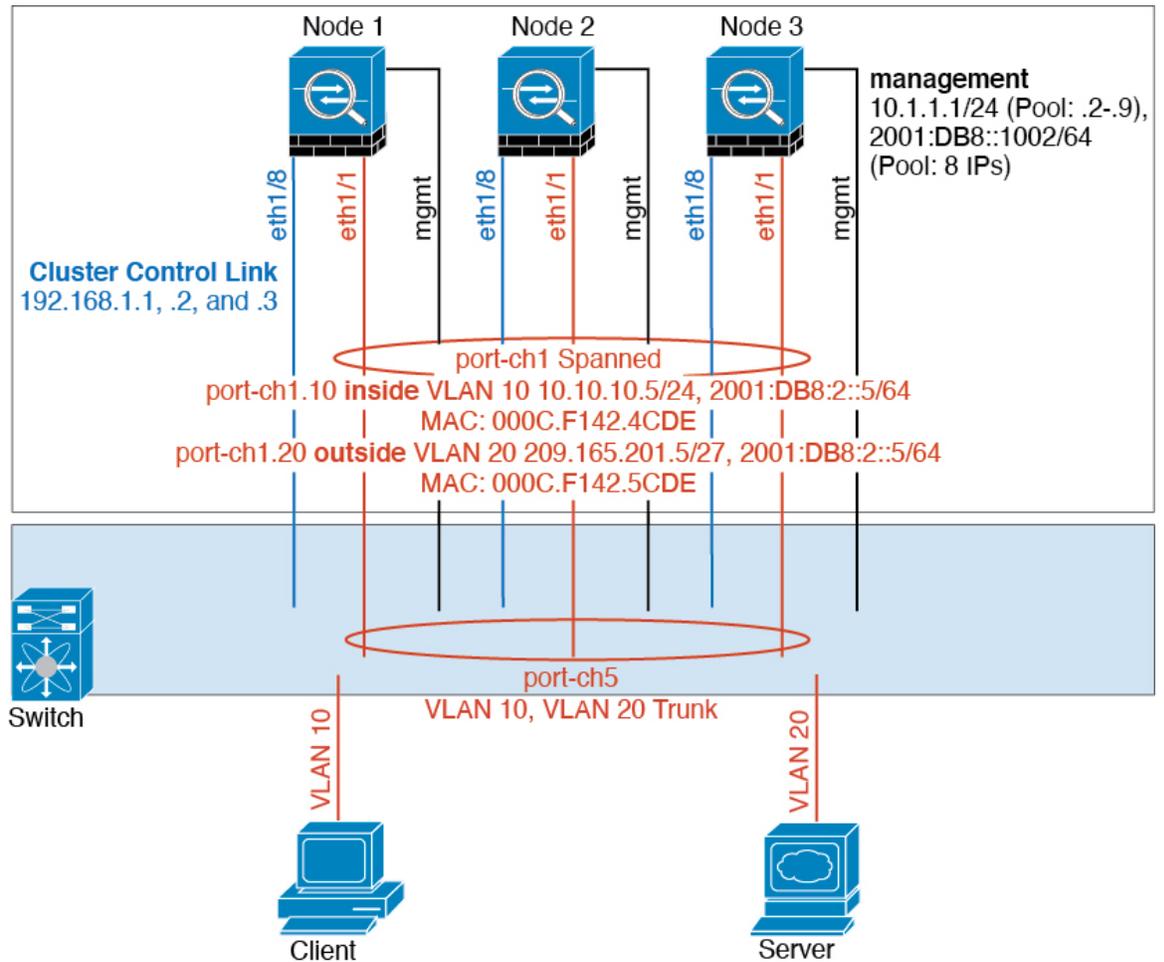
Dated: 18:38:41 | 01 Mar 2023 Close

ノードは、最大 MTU に一致するパケットサイズを使用して、クラスタ制御リンクで他のすべてのノードに ping を送信します。

クラスタリングの例

これらの例には、一般的な導入が含まれます。

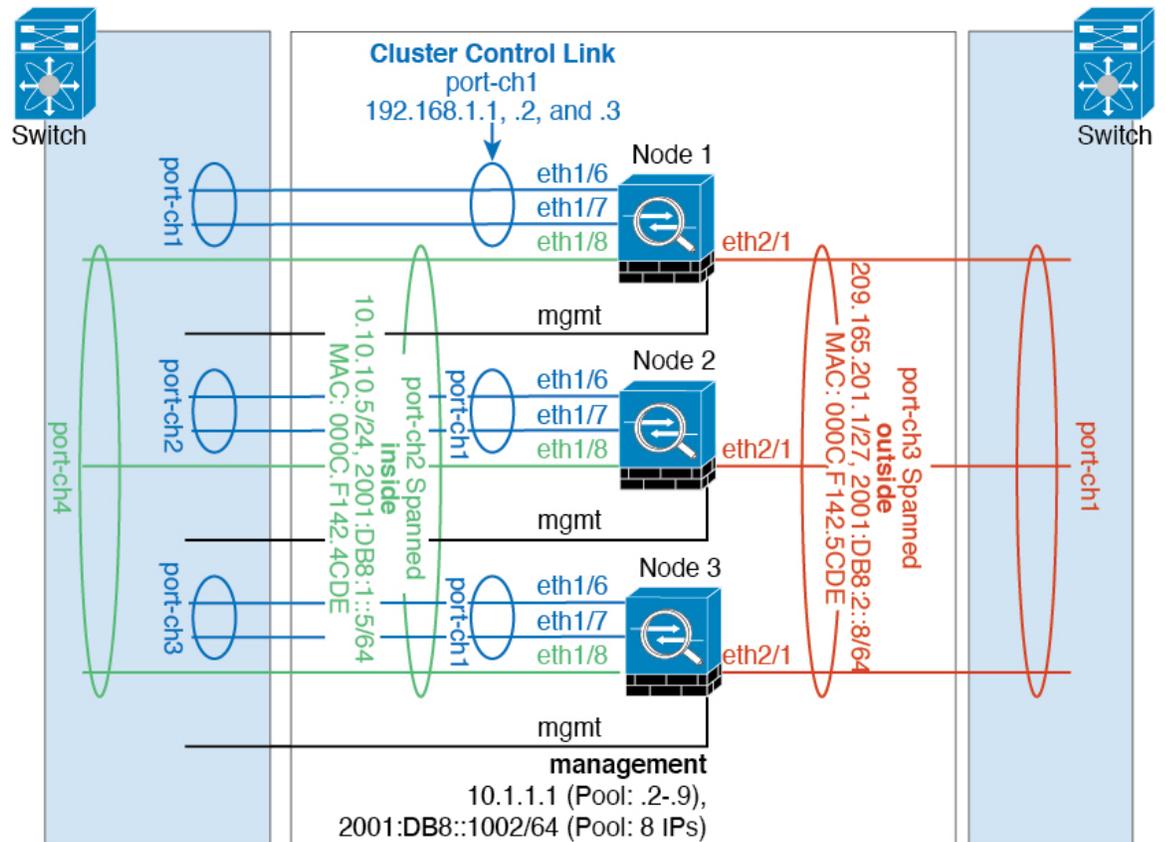
スティック上のファイアウォール



異なるセキュリティドメインからのデータトラフィックには、異なる VLAN が関連付けられます。たとえば内部ネットワーク用には VLAN 10、外部ネットワークには VLAN 20 とします。各は単一の物理ポートがあり、外部スイッチまたはルータに接続されます。トランッキングがイネーブルになっているので、物理リンク上のすべてのパケットが 802.1q カプセル化されます。は、VLAN 10 と VLAN 20 の間のファイアウォールです。

スパンド EtherChannel を使用するとき、スイッチ側ですべてのデータリンクがグループ化されて 1 つの EtherChannel となります。が使用不可能になった場合は、スイッチは残りのユニット間でトラフィックを再分散します。

トラフィックの分離



内部ネットワークと外部ネットワークの間で、トラフィックを物理的に分離できます。

上の図に示すように、左側に一方のスパンドEtherChannelがあり、内部スイッチに接続されています。他方は右側にあり、外部スイッチに接続されています。必要であれば、各EtherChannel上に VLAN サブインターフェイスを作成することもできます。

クラスタリングの参考資料

このセクションには、クラスタリングの動作に関する詳細情報が含まれます。

Threat Defense の機能とクラスタリング

Threat Defense の一部の機能はクラスタリングではサポートされず、一部は制御ユニットだけでサポートされます。その他の機能については適切な使用に関する警告があります。

クラスタリングでサポートされない機能

次の各機能は、クラスタリングが有効なときは設定できず、コマンドは拒否されます。



(注) クラスタリングでもサポートされていない FlexConfig 機能 (WCCP インスペクションなど) を表示するには、[ASA の一般的な操作のコンフィギュレーションガイド](#)を参照してください。FlexConfig では、Management Center GUI にはない多くの ASA 機能を設定できます。[FlexConfig ポリシー](#)を参照してください。

- リモート アクセス VPN (SSL VPN および IPsec VPN)
- DHCP クライアント、サーバー、およびプロキシ。DHCP リレーはサポートされていません。
- 仮想トンネルインターフェイス (VTI)
- 高可用性
- 統合ルーティングおよびブリッジング
- Management Center UCAPL/CC モード

クラスタリングの中央集中型機能

次の機能は、制御ノード上だけでサポートされます。クラスタの場合もスケーリングされません。



(注) 中央集中型機能のトラフィックは、クラスタ制御リンク経由でメンバーノードから制御ノードに転送されます。

再分散機能を使用する場合は、中央集中型機能のトラフィックが中央集中型機能として分類される前に再分散が行われて、制御ノード以外のノードに転送されることがあります。この場合は、トラフィックが制御ノードに送り返されます。

中央集中型機能については、制御ノードで障害が発生するとすべての接続がドロップされるので、新しい制御ノード上で接続を再確立する必要があります。



(注) クラスタリングでも一元化されている FlexConfig 機能 (RADIUS インスペクションなど) を表示するには、[ASA の一般的な操作のコンフィギュレーションガイド](#)を参照してください。FlexConfig では、Management Center GUI にはない多くの ASA 機能を設定できます。[FlexConfig ポリシー](#)を参照してください。

- 次のアプリケーション インスペクション :
 - DCERPC

- ESMTTP
 - NetBIOS
 - PPTP
 - RSH
 - SQLNET
 - SUNRPC
 - TFTP
 - XDMCP
-
- スタティック ルート モニタリング
 - サイト間 VPN
 - IGMP マルチキャスト コントロール プレーン プロトコル処理 (データ プレーン転送はクラスタ全体に分散されます)
 - PIM マルチキャスト コントロール プレーン プロトコル処理 (データ プレーン転送はクラスタ全体に分散されます)
 - ダイナミック ルーティング

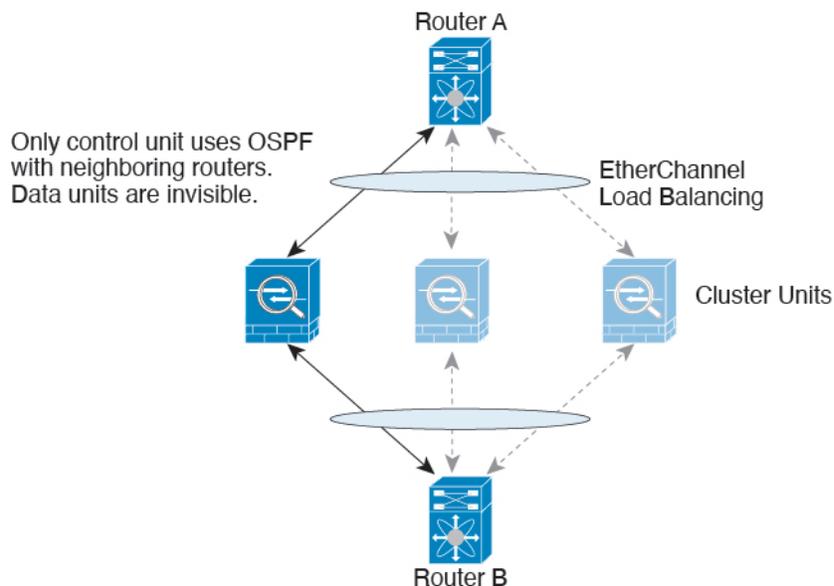
接続設定

接続制限は、クラスタ全体に適用されます。各ノードには、ブロードキャストメッセージに基づくクラスタ全体のカウンタの推定値があります。クラスタ全体で接続制限を設定しても、効率性を考慮して、厳密に制限数で適用されない場合があります。各ノードでは、任意の時点でのクラスタ全体のカウンタ値が過大評価または過小評価される可能性があります。ただし、ロードバランシングされたクラスタでは、時間の経過とともに情報が更新されます。

ダイナミック ルーティングおよびクラスタリング

ルーティングプロセスは制御ユニット上だけで実行されます。ルートは制御ユニットを介して学習され、セカンダリに複製されます。ルーティングパケットがデータユニットに到着した場合は、制御ユニットにリダイレクトされます。

図 16: ダイナミック ルーティング



データユニットが制御ユニットからルートを学習した後は、各ユニットが個別に転送に関する判断を行います。

OSPF LSA データベースは、制御ユニットからデータユニットに同期されません。制御ユニットのスイッチオーバーが発生した場合は、隣接ルータが再起動を検出します。スイッチオーバーは透過的ではありません。OSPF プロセスが IP アドレスの 1 つをルータ ID として選択します。必須ではありませんが、スタティック ルータ ID を割り当てることができます。これで、同じルータ ID がクラスタ全体で使用されるようになります。割り込みを解決するには、OSPF ノンストップ フォワーディング機能を参照してください。

FTP とクラスタリング

- FTPD チャンネルとコントロールチャンネルのフローがそれぞれ別のクラスタメンバーによって所有されている場合は、D チャンネルのオーナーは定期的にアイドルタイムアウトアップデートをコントロールチャンネルのオーナーに送信し、アイドルタイムアウト値を更新します。ただし、コントロールフローのオーナーがリロードされて、コントロールフローが再ホスティングされた場合は、親子フロー関係は維持されなくなります。したがって、コントロールフローのアイドルタイムアウトは更新されません。

マルチキャストルーティングとクラスタリング

ファーストパス転送が確立されるまでの間、制御ユニットがすべてのマルチキャストルーティングパケットとデータパケットを処理します。接続が確立された後は、各データユニットがマルチキャストデータパケットを転送できます。

NAT とクラスタリング

NAT は、クラスタの全体的なスループットに影響を与えることがあります。インバウンドおよびアウトバウンドの NAT パケットが、それぞれクラスタ内の別の Threat Defense に送信されることがあります。ロードバランシングアルゴリズムは IP アドレスとポートに依存していますが、NAT が使用される場合は、インバウンドとアウトバウンドとで、パケットの IP アドレスやポートが異なるからです。NAT オーナーではない Threat Defense に到着したパケットは、クラスタ制御リンクを介してオーナーに転送されるため、クラスタ制御リンクに大量のトラフィックが発生します。NAT オーナーは、セキュリティおよびポリシーチェックの結果に応じてパケットの接続を作成できない可能性があるため、受信側ノードは、オーナーへの転送フローを作成しないことに注意してください。

それでもクラスタリングで NAT を使用する場合は、次のガイドラインを考慮してください。

- ポートブロック割り当てによる PAT : この機能については、次のガイドラインを参照してください。
 - ホストあたりの最大制限は、クラスタ全体の制限ではなく、ノードごとに個別に適用されます。したがって、ホストあたりの最大制限が 1 に設定されている 3 ノードクラスタでは、ホストからのトラフィックが 3 つのノードすべてにロードバランシングされている場合、3 つのブロックを各ノードに 1 つずつ割り当てることができます。
 - バックアッププールからバックアップノードで作成されたポートブロックは、ホストあたりの最大制限の適用時には考慮されません。
 - PAT プールが完全に新しい IP アドレスの範囲で変更される On-the-fly PAT ルールの変更では、新しいプールが有効になっていてもまだ送信中の xlate バックアップ要求に対する xlate バックアップの作成が失敗します。この動作はポートのブロック割り当て機能に固有なものではなく、プールが分散されトラフィックがクラスタノード間でロードバランシングされるクラスタ展開でのみ見られる一時的な PAT プールの問題です。
 - クラスタで動作している場合、ブロック割り当てサイズを変更することはできません。新しいサイズは、クラスタ内の各デバイスをリロードした後にのみ有効になります。各デバイスのリロードの必要性を回避するために、すべてのブロック割り当てルールを削除し、それらのルールに関連するすべての xlate をクリアすることをお勧めします。その後、ブロックサイズを変更し、ブロック割り当てルールを再作成できます。
- ダイナミック PAT の NAT プールアドレス配布 : PAT プールを設定すると、クラスタはプール内の各 IP アドレスをポートブロックに分割します。デフォルトでは、各ブロックは 512 ポートですが、ポートブロック割り当てルールを設定すると、代わりにユーザのブロック設定が使用されます。これらのブロックはクラスタ内のノード間で均等に分散されるため、各ノードには PAT プール内の IP アドレスごとに 1 つ以上のブロックがあります。したがって、想定される PAT 接続数に対して十分である場合には、クラスタの PAT プールに含める IP アドレスを 1 つだけにすることができます。PAT プールの NAT ルールで予約済みポート 1 ~ 1023 を含めるようにオプションを設定しない限り、ポートブロックは 1024 ~ 65535 のポート範囲をカバーします。

- 複数のルールにおける PAT プールの再利用：複数のルールで同じ PAT プールを使用するには、ルールにおけるインターフェイスの選択に注意を払う必要があります。すべてのルールで特定のインターフェイスを使用するか、あるいはすべてのルールで「任意」のインターフェイスを使用するか、いずれかを選択する必要があります。ルール全般にわたって特定のインターフェイスと「任意」のインターフェイスを混在させることはできません。混在させると、システムがリターントラフィックとクラスタ内の適切なノードを一致させることができなくなる場合があります。ルールごとに固有の PAT プールを使用することは、最も信頼性の高いオプションです。
- ラウンドロビンなし：PAT プールのラウンドロビンは、クラスタリングではサポートされません。
- 拡張 PAT なし：拡張 PAT はクラスタリングでサポートされません。
- 制御ノードによって管理されるダイナミック NAT xlate：制御ノードが xlate テーブルを維持し、データノードに複製します。ダイナミック NAT を必要とする接続をデータノードが受信したときに、その xlate がテーブル内がない場合、データノードは制御ノードに xlate を要求します。データノードが接続を所有します。
- 旧式の xlates：接続所有者の xlate アイドル時間が更新されません。したがって、アイドル時間がアイドルタイムアウトを超える可能性があります。refcnt が 0 で、アイドルタイマー値が設定されたタイムアウトより大きい場合は、旧式の xlate であることを示します。
- 次のインスペクション用のスタティック PAT はありません。
 - FTP
 - RSH
 - SQLNET
 - TFTP
 - XDMCP
 - SIP
- 1 万を超える非常に多くの NAT ルールがある場合は、デバイスの CLI で **asp rule-engine transactional-commit nat** コマンドを使用してトランザクションコミットモデルを有効にする必要があります。有効にしないと、ノードがクラスタに参加できない可能性があります。

SIP インспекションとクラスタリング

制御フローは、（ロードバランシングにより）任意のノードに作成できますが、子データフローは同じノードに存在する必要があります。

SNMP とクラスタリング

SNMP ポーリングには、メインクラスタ IP アドレスではなく、常にローカルアドレスを使用してください。SNMP エージェントがメインクラスタ IP アドレスをポーリングする場合、新しい制御ノードが選択されると、新しい制御ノードのポーリングは失敗します。

クラスタリングで SNMPv3 を使用している場合、最初のクラスタ形成後に新しいクラスタノードを追加すると、SNMPv3 ユーザーは新しいノードに複製されません。ユーザーを削除して再追加し、設定を再展開して、ユーザーを新しいノードに強制的に複製する必要があります。

syslog とクラスタリング

- クラスタの各ノードは自身の syslog メッセージを生成します。ロギングを設定して、各ノードの syslog メッセージヘッダー フィールドで同じデバイス ID を使用するか、別の ID を使用するかを設定できます。たとえば、ホスト名設定はクラスタ内のすべてのノードに複製されて共有されます。ホスト名をデバイス ID として使用するようロギングを設定した場合、すべてのノードで生成される syslog メッセージが 1 つのノードから生成されているように見えます。クラスタブートストラップ設定で割り当てられたローカルノード名をデバイス ID として使用するようロギングを設定した場合、syslog メッセージはそれぞれ別のノードから生成されているように見えます。

TLS/SSL 接続とクラスタリング

TLS/SSL 接続の復号状態は同期されず、接続オーナーに障害が発生すると、復号された接続がリセットされます。新しいユニットへの新しい接続を確立する必要があります。復号されていない接続（復号しないルールに一致）は影響を受けず、正しく複製されます。

Cisco TrustSec とクラスタリング

制御ノードだけがセキュリティグループタグ (SGT) 情報を学習します。その後、制御ノードからデータノードに SGT が渡されるため、データノードは、セキュリティポリシーに基づいて SGT の一致を判断できます。

VPN とクラスタリング

サイト間 VPN は、中央集中型機能です。制御ユニットのみが VPN 接続をサポートします。



(注) リモート アクセス VPN は、クラスタリングではサポートされません。

VPN 機能を使用できるのは制御ユニットだけであり、クラスタの高可用性機能は活用されません。制御ユニットで障害が発生した場合は、すべての既存の VPN 接続が失われ、VPN ユーザーにとってはサービスの中断となります。新しい制御ユニットが選定されたときに、VPN 接続を再確立する必要があります。

VPN トンネルをスパンドインターフェイスのアドレスに接続すると、接続が自動的に制御ユニットに転送されます。

VPN 関連のキーと証明書は、すべてのユニットに複製されます。

パフォーマンス スケーリング係数

複数のユニットをクラスタに結合すると、期待できる合計クラスタパフォーマンスは、最大合計スループットの約 80% になります。

たとえば、TCP スループットについては、3 つの SM-40 モジュールを備えた Firepower 9300 が処理できる実際のファイアウォールトラフィックは、単独動作時は約 135 Gbps となります。2 シャーシの場合、最大スループットの合計は 270 Gbps (2 シャーシ X 135 Gbps) の約 80%、つまり 216 Gbps です。

制御ユニットの選定

クラスタのメンバーは、クラスタ制御リンクを介して通信して制御ユニットを選定します。方法は次のとおりです。

1. クラスタを展開すると、各ユニットは選定要求を 3 秒ごとにブロードキャストします。
2. プライオリティの高い他のユニットがこの選定要求に応答します。プライオリティはクラスタの展開時に設定され、設定の変更はできません。
3. 45 秒経過しても、プライオリティの高い他のユニットからの応答を受信していない場合は、そのユニットが制御ユニットになります。



(注) 最高のプライオリティを持つユニットが複数ある場合は、クラスタユニット名、次にシリアル番号を使用して制御ユニットが決定されます。

4. 後からクラスタに参加したユニットのプライオリティの方が高い場合でも、そのユニットが自動的に制御ユニットになることはありません。既存の制御ユニットは常に制御ユニットのままです。ただし、制御ユニットが応答を停止すると、その時点で新しい制御ユニットが選定されます。
5. 「スプリットブレイン」シナリオで一時的に複数の制御ユニットが存在する場合、優先順位が最も高いユニットが制御ユニットの役割を保持し、他のユニットはデータユニットの役割に戻ります。



(注) 特定のユニットを手動で強制的に制御ユニットにすることができます。中央集中型機能については、制御ユニット変更を強制するとすべての接続がドロップされるので、新しい制御ユニット上で接続を再確立する必要があります。

クラスタ内のハイアベイラビリティ

クラスタリングは、シャーシ、ユニットとインターフェイスの正常性を監視し、ユニット間で接続状態を複製することにより、ハイアベイラビリティを提供します。

シャーシアプリケーションのモニターリング

シャーシアプリケーションのヘルスマニターリングは常に有効になっています。Firepower 4100/9300 シャーシスーパーバイザは、Threat Defense アプリケーションを定期的に確認します（毎秒）。Threat Defense デバイスが作動中で、Firepower 4100/9300 シャーシスーパーバイザと 3 秒間通信できなければ、Threat Defense デバイスは syslog メッセージを生成して、クラスタを離れます。

Firepower 4100/9300 シャーシスーパーバイザが 45 秒後にアプリケーションと通信できなければ、Threat Defense デバイスをリロードします。Threat Defense デバイスがスーパーバイザと通信できなければ、自身をクラスタから削除します。

装置のヘルスマニターリング

各ユニットは、クラスタ制御リンクを介してブロードキャストキープアライブハートビートパケットを定期的に送信します。設定可能なタイムアウト期間内にデータノードからキープアライブハートビートパケット、またはその他のパケットを受信しない場合、制御ノードはクラスタからデータノードを削除します。データノードが制御ノードからパケットを受信しない場合、残りのノードから新しい制御ノードが選択されます。

ノードで実際に障害が発生したためではなく、ネットワークの障害が原因で、ノードがクラスタ制御リンクを介して相互に通信できない場合、クラスタは「スプリットブレイン」シナリオに移行する可能性があります。このシナリオでは、分離されたデータノードが独自の制御ノードを選択します。たとえば、2つのクラスタロケーション間でルータに障害が発生した場合、ロケーション1の元の制御ノードは、ロケーション2のデータノードをクラスタから削除します。一方、ロケーション2のノードは、独自の制御ノードを選択し、独自のクラスタを形成します。このシナリオでは、非対称トラフィックが失敗する可能性があることに注意してください。クラスタ制御リンクが復元されると、より優先順位の高い制御ノードが制御ノードの役割を保持します。詳細については、[制御ユニットの選定 \(71 ページ\)](#) を参照してください。

インターフェイスモニターリング

各ノードは、使用中のすべてのハードウェアインターフェイスのリンクステータスを監視し、ステータスの変更を制御ノードに報告します。複数のシャーシにわたるクラスタリングの場合、スバンド EtherChannel はクラスタ Link Aggregation Control Protocol (cLACP) を使用します。各シャーシはリンクステータスと cLACP プロトコルメッセージをモニターして EtherChannel でポートがアクティブであるかどうかを判別し、インターフェイスがダウンしている場合には Threat Defense アプリケーションに通知します。ヘルスマニターリングを有効にすると、デフォルトではすべての物理インターフェイスがモニターされます (EtherChannel インターフェイスのメイン EtherChannel を含む)。アップ状態の名前付きインターフェイスのみモニターできます。たとえば、名前付き EtherChannel がクラスタから削除されるまでは、EtherChannel のすべ

でのメンバー ポートは失敗しなければなりません。ヘルス チェックは、インターフェイスごとに、モニタリングをオプションで無効にすることができます。

特定のノードで監視対象のインターフェイスに障害が発生し、その他のノードでそのインターフェイスがアクティブになっている場合、そのノードはクラスタから削除されます。Threat Defense デバイスによってノードがクラスタから削除されるまでの時間は、そのノードが確立済みのメンバーであるかクラスタに参加しようとしているかによって異なります。Threat Defense デバイスは、ノードがクラスタに参加する最初の90秒間はインターフェイスを監視しません。この間にインターフェイスのステータスが変化しても、Threat Defense デバイスはクラスタから削除されません。確立済みのメンバーの場合は、500 ミリ秒後にノードが削除されます。

複数のシャーシにわたるクラスタリングの場合、クラスタから EtherChannel を追加または削除すると、各シャーシに変更を加えられるように、インターフェイスヘルスモニタリングは95秒間中断されます。

デコレータ アプリケーションのモニタリング

インターフェイスに Radware DefensePro アプリケーションなどのデコレータアプリケーションをインストールした場合、ユニットがクラスタ内にとどまるには Threat Defense デバイス、デコレータアプリケーションの両方が動作している必要があります。両方のアプリケーションが動作状態になるまで、ユニットはクラスタに参加しません。いったんクラスタに参加すると、ユニットはデコレータアプリケーションが正しく動作しているか3秒ごとにモニターします。デコレータアプリケーションがダウンすると、ユニットはクラスタから削除されます。

障害後のステータス

クラスタ内のノードで障害が発生したときに、そのノードでホストされている接続は他のノードにシームレスに移行されます。トラフィックフローのステート情報は、制御ノードのクラスタ制御リンクを介して共有されます。

制御ノードで障害が発生した場合、そのクラスタの他のメンバーのうち、優先順位が最高（番号が最小）のメンバーが制御ノードになります。

障害イベントに応じて、Threat Defense は自動的にクラスタへの再参加を試みます。



- (注) Threat Defense が非アクティブになり、クラスタへの自動再参加に失敗すると、すべてのデータインターフェイスがシャットダウンされ、管理インターフェイスのみがトラフィックを送受信できます。

クラスタへの再参加

クラスタメンバがクラスタから削除された後、クラスタに再参加するための方法は、削除された理由によって異なります。

- 最初に参加するときに障害が発生したクラスタ制御リンク：クラスタ制御リンクの問題を解決した後、クラスタリングを再び有効にして、手動でクラスタに再参加する必要があります。

- クラスタに参加した後に障害が発生したクラスタ制御リンク：Threat Defense は、無限に 5 分ごとに自動的に再参加を試みます。
- データインターフェイスの障害：Threat Defense は自動的に最初は 5 分後、次に 10 分後、最終的に 20 分後に再参加を試みます。20 分後に参加できない場合、Threat Defense アプリケーションはクラスタリングを無効にします。データインターフェイスの問題を解決した後、手動でクラスタリングを有効にする必要があります。
- ノードの障害：ノードがヘルスチェック失敗のためクラスタから削除された場合、クラスタへの再参加は失敗の原因によって異なります。たとえば、一時的な電源障害の場合は、クラスタ制御リンクが稼働している限り、ノードは再起動するとクラスタに再参加します。Threat Defense アプリケーションは 5 秒ごとにクラスタへの再参加を試みます。
- 内部エラー：内部エラーには、アプリケーション同期のタイムアウト、一貫性のないアプリケーションステータスなどがあります。
- 障害が発生した設定の展開：Management Center から新しい設定を展開し、展開が一部のクラスタメンバーでは失敗したものの、他のメンバーでは成功した場合、失敗したノードはクラスタから削除されます。クラスタリングを再度有効にして手動でクラスタに再参加する必要があります。制御ノードで展開が失敗した場合、展開はロールバックされ、メンバーは削除されません。すべてのデータノードで展開が失敗した場合、展開はロールバックされ、メンバーは削除されません。
- シャーシアプリケーション通信の障害：Threat Defense アプリケーションはシャーシアプリケーションの状態が回復したことを検出すると、自動的にクラスタへの再参加を試みます。

データパス接続状態の複製

どの接続にも、1つのオーナーおよび少なくとも1つのバックアップオーナーがクラスタ内にあります。バックアップオーナーは、障害が発生しても接続を引き継ぎません。代わりに、TCP/UDP のステート情報を保存します。これは、障害発生時に接続が新しいオーナーにシームレスに移管されるようにするためです。バックアップオーナーは通常ディレクタでもあります。

トラフィックの中には、TCP または UDP レイヤよりも上のステート情報を必要とするものがあります。この種類のトラフィックに対するクラスタリングのサポートの可否については、次の表を参照してください。

表 3: クラスタ全体で複製される機能

トラフィック	状態のサポート	注
アップタイム	対応	システムアップタイムをトラッキングします。
ARP テーブル	対応	—
MAC アドレス テーブル	対応	—

トラフィック	状態のサポート	注
ユーザ アイデンティティ	対応	—
IPv6 ネイバー データベース	対応	—
ダイナミック ルーティング	対応	—
SNMP エンジン ID	なし	—

クラスタが接続を管理する方法

接続をクラスタの複数のノードにロードバランシングできます。接続のロールにより、通常動作時とハイ アベイラビリティ状況時の接続の処理方法が決まります。

接続のロール

接続ごとに定義された次のロールを参照してください。

- **オーナー**：通常、最初に接続を受信するノード。オーナーは、TCP 状態を保持し、パケットを処理します。1 つの接続に対してオーナーは 1 つだけです。元のオーナーに障害が発生すると、新しいノードが接続からパケットを受信したときにディレクタがそれらのノードの新しいオーナーを選択します。
- **バックアップオーナー**：オーナーから受信した TCP/UDP ステート情報を格納するノード。障害が発生した場合、新しいオーナーにシームレスに接続を転送できます。バックアップオーナーは、障害発生時に接続を引き継ぎません。オーナーが使用不可能になった場合、（ロードバランシングに基づき）その接続からのパケットを受信する最初のノードがバックアップオーナーに問い合わせ、関連するステート情報を取得し、そのノードが新しいオーナーになります。

ディレクタ（下記参照）がオーナーと同じノードでない限り、ディレクタはバックアップオーナーでもあります。オーナーが自分をディレクタとして選択した場合は、別のバックアップオーナーが選択されます。

1 台のシャーシに最大 3 つのクラスタノードを搭載できる Firepower 9300 のクラスタリングでは、バックアップオーナーがオーナーと同じシャーシにある場合、シャーシ障害からフローを保護するために、別のシャーシから追加のバックアップオーナーが選択されます。

- **ディレクタ**：フォワーダからのオーナールックアップ要求を処理するノード。オーナーは、新しい接続を受信すると、送信元/宛先 IP アドレスおよびポートのハッシュに基づいてディレクタを選択し、新しい接続を登録するためにそのディレクタにメッセージを送信します。パケットがオーナー以外のノードに到着した場合、そのノードはどのノードがオーナーかをディレクタに問い合わせることで、パケットを転送できます。1 つの接続に対してディレクタは 1 つだけです。ディレクタが失敗すると、オーナーは新しいディレクタを選択します。

ディレクタがオーナーと同じノードでない限り、ディレクタはバックアップオーナーでもあります（上記参照）。オーナーがディレクタとして自分自身を選択すると、別のバックアップオーナーが選択されます。

ICMP/ICMPv6 ハッシュの詳細：

- エコーパケットの場合、送信元ポートは ICMP 識別子で、宛先ポートは 0 です。
 - 応答パケットの場合、送信元ポートは 0 で、宛先ポートは ICMP 識別子です。
 - 他のパケットの場合、送信元ポートと宛先ポートの両方が 0 です。
- フォワーダ：パケットをオーナーに転送するノード。フォワーダが接続のパケットを受信したときに、その接続のオーナーが自分ではない場合は、フォワーダはディレクタにオーナーを問い合わせしてから、そのオーナーへのフローを確立します。これは、この接続に関してフォワーダが受信するその他のパケット用です。ディレクタは、フォワーダにもなることができます。フォワーダが SYN-ACK パケットを受信した場合、フォワーダはパケットの SYN キーからオーナーを直接取得できるので、ディレクタに問い合わせる必要がないことに注意してください。（TCP シーケンスのランダム化を無効にした場合は、SYN Cookie は使用されないため、ディレクタへの問い合わせが必要です）。存続期間が短いフロー（たとえば DNS や ICMP）の場合は、フォワーダは問い合わせの代わりにパケットを即座にディレクタに送信し、ディレクタがそのパケットをオーナーに送信します。1つの接続に対して、複数のフォワーダが存在できます。最も効率的なスループットを実現できるのは、フォワーダが1つもなく、接続のすべてのパケットをオーナーが受信するという、優れたロードバランシング方法が使用されている場合です。



(注) クラスタリングを使用する場合は、TCP シーケンスのランダム化を無効にすることは推奨されません。SYN/ACK パケットがドロップされる可能性があるため、一部の TCP セッションが確立されない可能性があります。

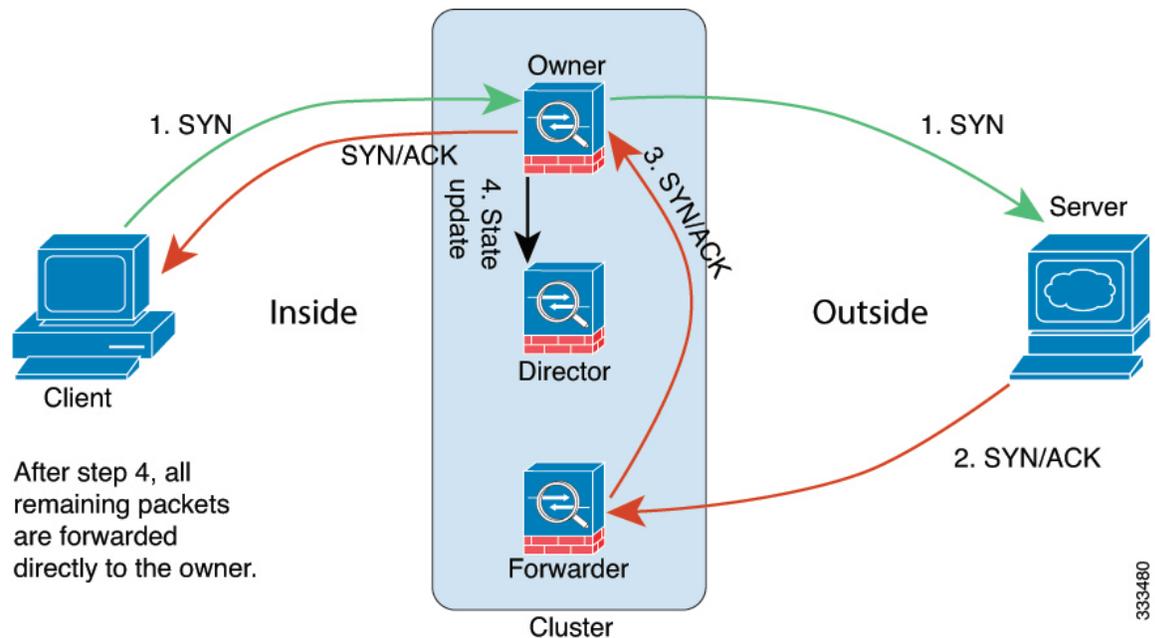
- フラグメントオーナー：フラグメント化されたパケットの場合、フラグメントを受信するクラスタノードは、フラグメントの送信元と宛先の IP アドレス、およびパケット ID のハッシュを使用してフラグメントオーナーを特定します。その後、すべてのフラグメントがクラスタ制御リンクを介してフラグメント所有者に転送されます。スイッチのロードバランスハッシュで使用される 5 タプルは、最初のフラグメントにのみ含まれているため、フラグメントが異なるクラスタノードにロードバランシングされる場合があります。他のフラグメントには、送信元ポートと宛先ポートは含まれず、他のクラスタノードにロードバランシングされる場合があります。フラグメント所有者は一時的にパケットを再アセンブルするため、送信元/宛先 IP アドレスとポートのハッシュに基づいてディレクタを決定できます。新しい接続の場合は、フラグメントの所有者が接続所有者として登録されます。これが既存の接続の場合、フラグメント所有者は、クラスタ制御リンクを介して、指定された接続所有者にすべてのフラグメントを転送します。その後、接続の所有者はすべてのフラグメントを再構築します。

新しい接続の所有権

新しい接続がロードバランシング経由でクラスタのノードに送信される場合は、そのノードがその接続の両方向のオーナーとなります。接続の packets が別のノードに到着した場合は、その packets はクラスタ制御リンクを介してオーナーノードに転送されます。逆方向のフローが別のノードに到着した場合は、元のノードにリダイレクトされます。

TCP のサンプルデータフロー

次の例は、新しい接続の確立を示します。



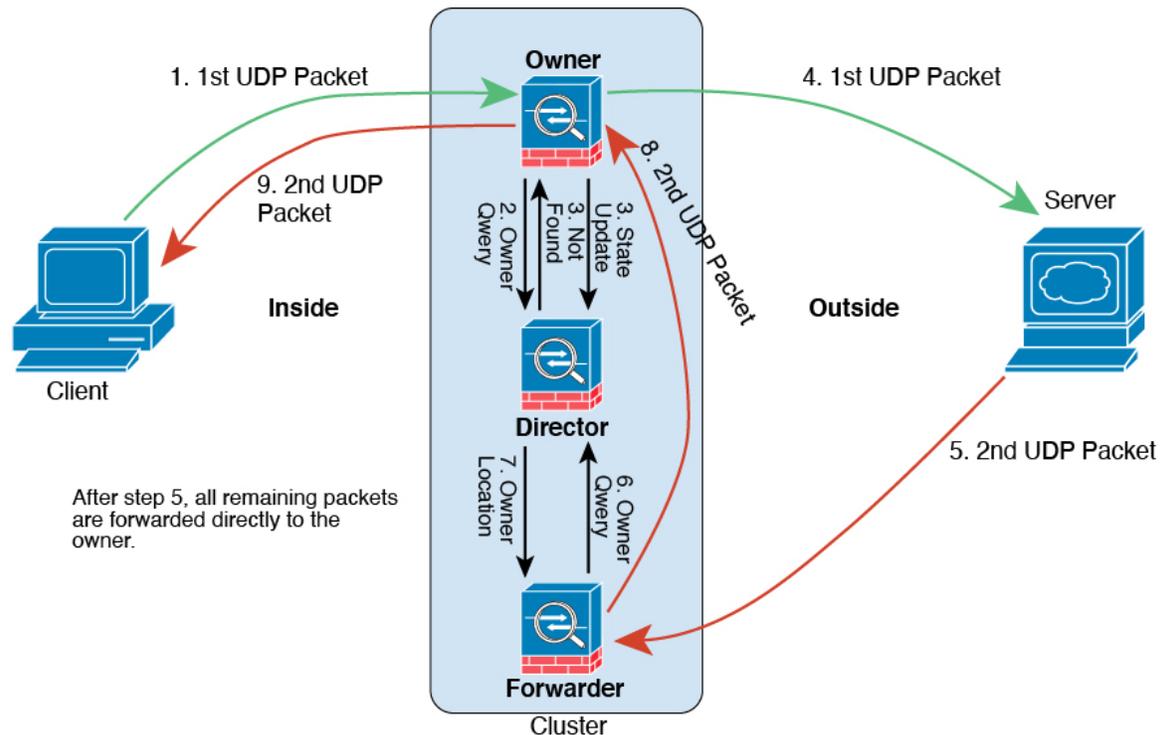
1. SYN パケットがクライアントから発信され、Threat Defense の 1 つ（ロードバランシング方法に基づく）に配信されます。これがオーナーとなります。オーナーはフローを作成し、オーナー情報をエンコードして SYN Cookie を生成し、パケットをサーバに転送します。
2. SYN-ACK パケットがサーバから発信され、別の Threat Defense（ロードバランシング方法に基づく）に配信されます。この Threat Defense はフォワーダです。
3. フォワーダはこの接続を所有してはいないので、オーナー情報を SYN Cookie からデコードし、オーナーへの転送フローを作成し、SYN-ACK をオーナーに転送します。
4. オーナーはディレクタに状態アップデートを送信し、SYN-ACK をクライアントに転送します。
5. ディレクタは状態アップデートをオーナーから受信し、オーナーへのフローを作成し、オーナーと同様に TCP 状態情報を記録します。ディレクタは、この接続のバックアップオーナーとしての役割を持ちます。
6. これ以降、フォワーダに配信されたパケットはすべて、オーナーに転送されます。

7. パケットがその他のノードに配信された場合、そのノードはディレクタに問い合わせ、オーナーを特定し、フローを確立します。
8. フローの状態が変化した場合、状態アップデートがオーナーからディレクタに送信されます。

ICMP および UDP のサンプルデータフロー

次の例は、新しい接続の確立を示します。

1. 図 17: ICMP および UDP データフロー



UDP パケットがクライアントから発信され、1つの Threat Defense（ロードバランシング方法に基づく）に配信されます。

2. 最初のパケットを受信したノードは、送信元/宛先 IP アドレスとポートのハッシュに基づいて選択されたディレクタノードをクエリします。
3. ディレクタは既存のフローを検出せず、ディレクタフローを作成して、以前のノードにパケットを転送します。つまり、ディレクタがこのフローのオーナーを選択したことになります。
4. オーナーはフローを作成し、ディレクタに状態アップデートを送信して、サーバーにパケットを転送します。
5. 2 番目の UDP パケットはサーバーから発信され、フォワーダに配信されます。

6. フォワーダはディレクタに対して所有権情報をクエリします。存続期間が短いフロー（DNS など）の場合、フォワーダはクエリする代わりにパケットを即座にディレクタに送信し、ディレクタがそのパケットをオーナーに送信します。
7. ディレクタは所有権情報をフォワーダに返信します。
8. フォワーダは転送フローを作成してオーナー情報を記録し、パケットをオーナーに転送します。
9. オーナーはパケットをクライアントに転送します。

クラスタリングの履歴

表 4:

機能	最小 Management Center	最小 Threat Defense	詳細
クラスタ制御リンク ping ツール。	7.4.1	いずれか	<p>ping を実行して、すべてのクラスタノードがクラスタ制御リンクを介して相互に到達できることを確認できます。ノードがクラスタに参加できない主な原因の 1 つは、クラスタ制御リンクの設定が正しくないことです。たとえば、クラスタ制御リンクの MTU が、接続しているスイッチの MTU よりも大きい値に設定されている可能性があります。</p> <p>新規/変更された画面：[デバイス (Devices)]>[デバイス管理 (Device Management)]>その他 (⋮)>[クラスタのライブステータス (Cluster Live Status)]</p> <p>その他のバージョンの制限：Management Center バージョン 7.3.x または 7.4.0 ではサポートされていません。</p>

機能	最小 Management Center	最小 Threat Defense	詳細
トラブルシューティングファイルの生成とダウンロードは、[デバイス (Device)]および [クラスタ (Cluster)] ページから実行できます。	7.4.1	7.4.1	<p>[デバイス (Device)] ページの各デバイス、および [クラスタ (Cluster)] ページのすべてのクラスタノードのトラブルシューティングファイルを生成およびダウンロードできます。クラスタの場合、すべてのファイルを単一の圧縮ファイルとしてダウンロードできます。クラスタノードのクラスタのクラスタログを含めることもできます。または、[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > その他 (⚙️) > [トラブルシューティングファイル (Troubleshoot Files)] メニューからファイル生成をトリガーできます。</p> <p>新規/変更された画面：</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [デバイス (Device)] > [全般 (General)] • [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスタ (Cluster)] > [全般 (General)]
デバイスまたはデバイスクラスタの CLI 出力を表示します。	7.4.1	任意 (Any)	<p>デバイスまたはクラスタのトラブルシューティングに役立つ一連の定義済み CLI 出力を表示できます。また、任意の show コマンドを入力して、出力を確認できます。</p> <p>新規/変更された画面：[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスタ (Cluster)] > [全般 (General)]</p>
クラスタのヘルスマニターの設定。	7.3.0	いずれか	<p>クラスタのヘルスマニター設定を編集できるようになりました。</p> <p>新規/変更された画面：[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > クラスタ (Cluster) > [クラスタのヘルスマニターの設定 (Cluster Health Monitor Settings)]</p> <p>(注) 以前に FlexConfig を使用してこれらの設定を行った場合は、展開前に必ず FlexConfig の設定を削除してください。削除しなかった場合は、FlexConfig の設定によって Management Center の設定が上書きされます。</p>
クラスタヘルスマニターダッシュボード。	7.3.0	いずれか	<p>クラスタのヘルスマニターダッシュボードでクラスタの状態を表示できるようになりました。</p> <p>新規/変更された画面：システム (⚙️) > [正常性 (Health)] > [モニター (Monitor)]</p>

機能	最小 Management Center	最小 Threat Defense	詳細
16 ノードクラスタのサポート。	7.2.0	7.2.0	Firepower 4100/9300 で 16 ノードクラスタを構成できるようになりました。これまでは最大で 6 ユニットでした。 新規/変更された画面：なし。 サポートされるプラットフォーム：Firepower 4100/9300
ファイアウォールの変更に対するクラスタの展開がより迅速に完了します。	7.1.0	7.1.0	ファイアウォールの変更に対するクラスタの展開がより迅速に完了するようになりました。 新規/変更された画面：なし。
クラスタリング用の PAT ポートブロック割り当ての改善。	7.0.0	7.0.0	PAT ポートブロック割り当ての改善により、制御ユニットはノードに参加するためにポートを確保し、未使用のポートを積極的に再利用できるようになります。割り当てを最適化するには、FlexConfig を使用して cluster-member-limit コマンドを実行して、予定しているクラスタ内の最大ノード数を設定します。これにより、制御ユニットは計画されたノード数にポートブロックを割り当てることができ、使用する予定のない追加のノード用にポートを予約する必要がなくなります。デフォルトは 16 ノードです。また、syslog 747046 を監視して、新しいノードに使用できるポートが十分にあることを確認することもできます。 新規/変更されたコマンド： cluster-member-limit (FlexConfig)、 show nat pool cluster [summary] 、 show nat pool ip detail
Snort の変更に対するクラスタの展開がより迅速に完了し、イベントが発生するとより迅速に失敗する。	6.7.0	6.7.0	Snort の変更に対するクラスタの展開がより迅速に完了するようになりました。また、Management Center 展開が失敗する原因となるイベントがクラスタにある場合、エラーがより迅速に発生するようになりました。 新規/変更された画面：なし。

機能	最小 Management Center	最小 Threat Defense	詳細
クラスタ管理の改善。	6.7.0	6.7.0	<p>Management Center では、以前は CLI を使用することでしか実現できなかった、次のようなクラスタ管理機能が改善されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クラスタユニットの有効化および無効化 • [デバイス管理 (Device Management)] ページからクラスタのステータスを表示 (ユニットごとの履歴とサマリーを含む) • ロールの制御ユニットへの変更 <p>新規/変更された画面 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [詳細 (More)] メニュー • [デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスタ (Cluster)] > [全般 (General)] エリア > [クラスタのライブステータス (Cluster Live Status)] リンク > [クラスタステータス (Cluster Status)] <p>サポートされるプラットフォーム : Firepower 4100/9300</p>

機能	最小 Management Center	最小 Threat Defense	詳細
マルチインスタンスクラスタリング。	6.6.0	6.6.0	<p>コンテナインスタンスを使用してクラスタを作成できるようになりました。Firepower 9300 では、クラスタ内の各モジュールに 1 つのコンテナインスタンスを含める必要があります。セキュリティエンジン/モジュールごとに複数のコンテナインスタンスをクラスタに追加することはできません。クラスタインスタンスごとに同じセキュリティモジュールまたはシャーシモデルを使用することを推奨します。ただし、必要に応じて、同じクラスタ内に異なる Firepower 9300 セキュリティモジュールタイプまたは Firepower 4100 モデルのコンテナインスタンスを混在させ、一致させることができます。同じクラスタ内で Firepower 9300 と 4100 のインスタンスを混在させることはできません。</p> <p>新規/変更された FXOS コマンド : set port-type cluster</p> <p>新規/変更された [Firepower Chassis Manager] 画面 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • [論理デバイス (Logical Devices)] > [クラスタの追加 (Add Cluster)] • [インターフェイス (Interfaces)] > [すべてのインターフェイス (All Interfaces)] > [新規追加 (Add New)] ドロップダウンメニュー > [サブインターフェイス (Subinterface)] > [タイプ (Type)] フィールド <p>サポートされるプラットフォーム : Firepower 4100/9300 上の Threat Defense</p>
データユニットとの設定の並列同期。	6.6.0	6.6.0	<p>制御ユニットでは、デフォルトで設定変更がデータユニットと同時に同期化されるようになりました。以前は、順番に同期が行われていました。</p> <p>新規/変更された画面 : なし。</p>
クラスタへの参加の失敗や削除のメッセージを show cluster history に追加。	6.6.0	6.6.0	<p>クラスタユニットがクラスタへの参加に失敗した場合や、クラスタを離脱した場合の新しいメッセージが、show cluster history コマンドに追加されました。</p> <p>新規/変更されたコマンド : show cluster history</p> <p>新規/変更された画面 : なし。</p>

機能	最小 Management Center	最小 Threat Defense	詳細
デッド接続検出 (DCD) の発信側および応答側の情報、およびクラスタ内の DCD のサポート。	6.5.0	6.5.0	<p>デッド接続検出 (DCD) を有効にした場合は、show conn detail コマンドを使用して発信側と応答側に関する情報を取得できます。デッド接続検出を使用すると、非アクティブな接続を維持できます。show conn の出力は、エンドポイントがプローブされた頻度が示されます。さらに、DCD がクラスタでサポートされるようになりました。</p> <p>新しい変更されたコマンド：show conn (出力のみ)</p> <p>サポートされるプラットフォーム：Firepower 4100/9300 上の Threat Defense</p>
クラスタの追加が容易に。	6.3.0	6.3.0	<p>Management Center にクラスタの任意のユニットを追加できるようになりました。他のクラスタユニットは自動的に検出されます。以前は、各クラスタユニットを個別のデバイスとして追加し、グループ化してクラスタにする必要がありました。クラスタユニットの追加も自動で実行されるようになりました。ユニットは手動で削除する必要があることに注意してください。</p> <p>新規/変更された画面：</p> <p>[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [追加 (Add)] ドロップダウンメニュー > [デバイス (Devices)] > [デバイスの追加 (Add Device)] ダイアログボックス</p> <p>[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [クラスタ (Cluster)] タブ > [全般 (General)] 領域 > [クラスタの登録ステータス (Cluster Registration Status)] > [現在のクラスタの概要 (Current Cluster Summary)] リンク > [クラスタステータス (Cluster Status)] ダイアログボックス</p> <p>サポートされるプラットフォーム：Firepower 4100/9300 上の Threat Defense</p>
中央集中型機能としてのクラスタリングによるサイト間 VPN のサポート。	6.2.3.3	6.2.3.3	<p>クラスタリングを使用してサイト間 VPN を設定できるようになりました。サイト間 VPN は、中央集中型機能です。制御ユニットのみが VPN 接続をサポートします。</p> <p>サポートされるプラットフォーム：Firepower 4100/9300 上の Threat Defense</p>

機能	最小 Management Center	最小 Threat Defense	詳細
内部障害発生後に自動的にクラスタに再参加します。	6.2.3	6.2.3	<p>以前は、多くの内部エラー状態によって、クラスタユニットがクラスタから削除され、ユーザーが問題を解決した後で、手動でクラスタに再参加する必要がありました。現在は、ユニットが自動的に、5分、10分、20分の間隔でクラスタに再参加しようとします。内部エラーには、アプリケーション同期のタイムアウト、一貫性のないアプリケーションステータスなどがあります。</p> <p>新しい/変更されたコマンド：show cluster info auto-join</p> <p>変更された画面はありません。</p> <p>サポートされるプラットフォーム：Firepower 4100/9300 上の Threat Defense</p>
6 モジュールの複数シャーシのクラスタリング、Firepower 4100 をサポート。	6.2.0	6.2.0	<p>FXOS 2.1.1 では、Firepower 9300 および 4100 の複数のシャーシでクラスタリングを有効にできるようになりました。Firepower 9300 の場合、最大 6 つのモジュールを含めることができます。たとえば、6 つのシャーシで 1 つのモジュールを使用したり、3 つのシャーシで 2 つのモジュールを使用したり、最大 6 つのモジュールを組み合わせたりできます。Firepower 4100 の場合、最大 6 つのシャーシを含めることができます。</p> <p>(注) サイト間クラスタリングもサポートされていません。しかし、サイト固有の MAC および IP アドレス、ディレクタのローカリゼーション、サイトの冗長性、クラスタフローモビリティなどの冗長性と安定性を向上させるためのカスタマイズは、FlexConfig 機能を使用した場合にのみ設定できます。</p> <p>変更された画面はありません。</p> <p>サポートされるプラットフォーム：Firepower 4100/9300 上の Threat Defense</p>
1 つの Firepower 9300 シャーシを使用した複数モジュールでのクラスタリング。	6.0.1	6.0.1	<p>FirePOWER 9300 シャーシ内では、最大 3 つのセキュリティ モジュールをクラスタ化できます。シャーシ内のすべてのモジュールは、クラスタに属している必要があります。</p> <p>新規/変更された画面：</p> <p>[デバイス (Devices)] > [デバイス管理 (Device Management)] > [追加 (Add)] > [クラスタの追加 (Add Cluster)]</p> <p>[Devices] > [Device Management] > [Cluster]</p> <p>サポートされるプラットフォーム：Firepower 9300 上の Threat Defense</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。